

〈公認心理師受験資格取得のための指定科目〉

公認心理師の職責

科目名称	公認心理師の職責		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Professionalism of Licensed Psychologists	授業区分	講義
科目責任者	綾城初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・田中・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師について、その基本的態度を身につけられるよう、役割、意義、倫理、法的義務及び主要領域の業務について学ぶ。講義はすべて公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員によって行われる。公認心理師取得のために大学院進学を検討している学生は必ず履修すること。なお、講義ではアクティブラーニングによって学びを深めるため、グループ・ディスカッションを積極的に活用する。主体的かつ協働的な参加が必須な授業である点に留意すること。		
到達目標	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師の職責について学び、その基本的知識と態度を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の役割（教科書 2 頁～25 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第2回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の法的義務及び倫理（教科書 58 頁～69 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第3回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師のトレーニングの実際（教科書 40 頁～57 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第4回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務①：保健医療 a（教科書 108 頁～119 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第5回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務②：保健医療 b（教科書 108 頁～119 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第6回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務④：司法・犯罪 a（教科書 148 頁～159 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第7回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務⑤：司法・犯罪 b（教科書 148 頁～159 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第8回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務⑥：福祉（教科書 120 頁～135 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第9回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師と多職種連携（教科書 90 頁～107 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第10回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師とスーパービジョン（教科書 40 頁～57 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第11回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師とコンサルテーション（教科書 90 頁～107 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p> <p>【第12回】  予習：教科書の授業該当頁を読む</p>			

<p>授業：公認心理師とアウトリーチ・地域連携（教科書 90 頁～107 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る  【第 13 回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：情報の取り扱いおよびクライアントの安全の確保（教科書 70 頁～89 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る  【第 14 回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師の業務⑥：教育（教科書 136 頁～147 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る  【第 15 回】  予習：教科書の授業該当頁を読む  授業：公認心理師における支援者の在り方（教科書 26 頁～39 頁）の講義及びグループディスカッション  復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る</p>								
授業開始前学習	テキストに目を通しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	発表・レポートや課題に対して、教員によるコメントによってフィードバックを行う。							
テキスト・教材	下山晴彦（監修・編著） 佐藤隆夫・本郷一夫（監修） 慶野遥香（編著）（2020）公認心理師スタンダードテキストシリーズ『公認心理師の職責』ミネルヴァ書房。							
参考書	授業内で別途指示するが、授業内で疑問などが生じた場合は参考図書として以下のテキストも有用である。 野島一彦（編）（2018）『公認心理師の職責』野島一彦・繁樹算男監修「公認心師の基礎と実践」シリーズ 遠見書房。							
評価の基準と方法	少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、平常点（毎回の授業への積極的な取り組み）25 点・各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点（5 点×15 回）。ミニレポートや小テストを提出しない場合は欠席とみなす。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目	公認心理師の受験資格を得るためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が心理臨床の実務経験を有している。各回では、それぞれの経験を活かして、公認心理師に求められる在り方について講義・演習を行う。							

科目名称	☆心理学入門（心理学概論）Ⅰ／心理学入門Ⅰ		
科目分類	100-121-11（2022年～入学者） 100-120-11（～2021年入学者）	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Psychology Ⅰ	授業区分	講義
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	私たちの認知や行動のメカニズムを明らかにするために心理学はどのような貢献ができるのだろうか。本授業の目標は、“こころ”をめぐる科学としての心理学の発展の歴史と基本的な知見・方法について知ることである。そのために心理学の基本的なトピックを概観する（特に「学習」や「発達」に関する領域については重点的に取り上げる予定）。		
到達目標	心理学の基礎的な知識やロジックを正確に理解し、それを身近な出来事の分析に応用することができるようになること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：教科書 p.3-8 までを読んでくること 授業：心理学の世界を概観する（1）「心を科学する方法」とは（初回につきイントロダクションとして講義の概要・評価方法などの説明も行う） 復習：教科書の該当ページおよび配布したレジュメを読み返し、心理学的なロジックについて理解すること			
【第2回】 予習：教科書 p.9-18 までを読んでくること 授業：心理学の世界を概観する（2）乳児や動物を対象とした研究のロジックを知る 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、心理学的なロジックについて理解すること			
【第3回】 予習：教科書 p.19-27 までを読んでくること 授業：行動の基本様式とは？ 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、行動の基本様式について理解すること			
【第4回】 予習：教科書 p.27-39 までを読んでくること 授業：行動の間接化、シンボル機能について 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、行動の間接化、シンボル機能を理解すること			
【第5回】 予習：教科書 p.39-45 までを読んでくること 授業：「心の理論」について 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、「心の理論」について理解する			
【第6回】 予習：教科書 p.47-54 までを読んでくること 授業：遺伝か、環境か 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、行動や心理が発達する要因について理解すること			
【第7回】 予習：教科書 p.54-61 までを読んでくること 授業：初期経験と認知発達および発達障害について 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、特にピアジェの認知発達理論について理解すること			
【第8回】 予習：教科書 p.65-70 までを読んでくること 授業：学習（1）心理学における「学習」とは？ 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、心理学的な「学習」の意味について理解すること			
【第9回】 予習：教科書 p.70-80 までを読んでくること 授業：学習（2）心理学における学習研究のいろいろ 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、「学習」をめぐる様々な研究成果を理解すること			
【第10回】 予習：教科書 p.80-87 までを読んでくること 授業：記憶（1）「記憶」の種類とその研究方法について 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、「記憶」の種類と研究方法を理解すること			
【第11回】 予習：教科書 p.87-100 までを読んでくること 授業：記憶（2）「記憶」の方略および神経学的な基礎 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、記憶の方略および神経学的な基礎を理解すること			
【第12回】 予習：教科書 p.101-116 までの指定箇所を読んでくること 授業：感覚・知覚（1）精神物理学的方法とは？ 復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、感覚・知覚研究のパラダイムを理解すること			

<p>【第13回】          予習：教科書 p.117-139 までの指定箇所を読んでくること          授業：感覚・知覚（2）感覚・知覚研究の拡がり-錯視や感覚間協応などについて-          復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、感覚・知覚に関する研究成果を理解すること</p> <p>【第14回】          予習：教科書 p.139-164 までの指定箇所を読んでくること          授業：感覚・知覚（3）感覚・知覚のまとめ/前期のまとめ          復習：教科書の該当ページおよびレジュメを読み返し、前期の授業で扱った内容について整理すること</p> <p>【第15回】          予習：確認テストの実施要領を理解しておく（実施要領は授業内で提示する）          授業：確認テストを実施          復習：前期に配布された資料等を読み返し、理解を定着させる</p>								
授業開始前学習	教科書の各授業回の該当箇所には目を通しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で講評する機会を設け、重要と思われるポイントについて振り返りを行う。							
テキスト・教材	鹿取廣人/杉本敏夫/鳥居修晃/河内十郎（編）『心理学 第5版補訂版』（東京大学出版会）							
参考書	授業内で適宜指示する。							
評価の基準と方法	確認テスト 70 点と平常点（授業内容に即した小レポートの提出 20%と授業への参加態度 10%）を総合して最終的な評価とする。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける	自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける	社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける	文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		○	△		
関連科目	心理学に関連する科目はすべて。							
その他	本授業は、「心理学入門Ⅱ（後期科目）」に続いていくように構成されている。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	☆心理学入門（心理学概論）Ⅱ／心理学入門Ⅱ		
科目分類	100-121-11（2022年～入学者） 100-120-11（～2021年入学者）	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Psychology II	授業区分	講義
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田・富士原	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	前期の心理学入門Ⅰに引き続き、心理学の基礎的知識の習得が目標となるが、2年次以降、心理学をより深めて学習していくためのガイダンスも兼ねる。具体的には、思考・言語、動機付け、知能とパーソナリティ、社会的行動について学び、心理学は個人の内界ばかりでなく対人相互的、社会相互的にとらえることが重要であり、そのような視点を持つことによって、様々な応用が可能な学問であることを理解してもらう。学生には、テキストを精読し、分からない言葉は、心理学辞典などで調べて授業に臨むことを求めたい。		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び、それらがどのように社会的な場面で活用されるのかを理解すると同時に、今後の専門的な学びのための全体的な見通しを持つことができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回～第7回 富士原担当</p> <p>【第1回】 予習：心理学入門Ⅰの学習を整理しておく。 授業：学習のガイダンス 復習：思考と言語に関する心理学研究史を調べる。</p> <p>【第2回】 予習：第1回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：問題解決、問題解決と認知的発達（テキスト pp 165-173） 復習：認知の発達に関する理論を調べる。</p> <p>【第3回】 予習：第2回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：知識、推論と発見（テキスト pp 174-186） 復習：論理的推論を妨害する要因についてまとめる。</p> <p>【第4回】 予習：第3回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：非言語的・言語的コミュニケーション、言語の特性（テキスト pp 187-200） 復習：人のコミュニケーションの特徴をまとめる。</p> <p>【第5回】 予習：第4回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：脳損傷と高次機能の障害（テキスト pp 200-208） 復習：大脳半球機能差について調べる。</p> <p>【第6回】 予習：第5回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：食と性の動機づけ、基本的情動（テキスト pp 209-222） 復習：情動に関する理論を調べる。</p> <p>【第7回】 予習：第6回で指示したテキストの精読と下調べ 授業：親和動機づけなど（テキスト pp 222-234） 単元テスト(1回から7回) 復習：第1回～第7回授業内容に関する感想レポートを作成する。</p> <p>第8回～第15回 飯田担当</p> <p>【第8回】 予習：テキスト（pp244-251）の精読と下調べ 授業：『個人差』①パーソナリティの分類（類型論と特性論）と検査法（テキスト pp244-251） 復習：類型論と特性論の違いについてまとめる。</p> <p>【第9回】 予習：テキスト（pp251-263）の精読と下調べ 授業：『個人差』②パーソナリティの発達と不適応・障害（テキスト pp251-263） 復習：パーソナリティの不適応・障害について、理論による違いについてまとめる。</p> <p>【第10回】 予習：テキスト（pp235-244）の精読と下調べ 授業：『個人差』③知能の測定、知能の因子（テキスト pp235-244） 復習：ビネー式知能検査とウェクスラー式の知能検査の違いについてまとめる。</p>			

<p>【第 11 回】  予習 : 第 8~10 回の重要ポイントの復習 (テキスト pp235-263)  授業 : 『個人差』まとめと確認 (小テスト) (テキスト pp235-263)  復習 : 小テストの復習</p> <p>【第 12 回】  予習 : テキスト (pp265-275) の精読と下調べ  授業 : 『社会行動』①社会行動の発達と社会的認知 (テキスト pp265-275)  復習 : 自我と自己の違いについてまとめる。</p> <p>【第 13 回】  予習 : テキスト (pp275-279) の精読と下調べ  授業 : 『社会行動』②態度と説得、社会的影響 (テキスト pp275-279)  復習 : 認知的不協和の例を考える。</p> <p>【第 14 回】  予習 : テキスト (pp279-294) の精読と下調べ  授業 : 『社会行動』③対人魅力と対人関係 (テキスト pp279-294)  復習 : 集団になることによってどのような問題があるかまとめる。</p> <p>【第 15 回】  予習 : 第 12~14 回の重要ポイントの復習 (テキスト pp265-294)  授業 : 『社会行動』まとめと確認 (小テスト) (テキスト pp265-294)  復習 : 小テストの復習</p>								
授業開始前学習	心理学入門 I の授業で学んだ知識を整理しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	レポートや小テストを課した場合には、適宜、当該テーマのポイントを解説していく。							
テキスト・教材	鹿取廣人、杉本敏夫、鳥居修晃 編 『心理学』 (東京大学出版会)							
参考書								
評価の基準と方法	前半 (富士原) が 50% (授業内課題・復習課題 25%・単元テスト 25%)、後半 (飯田) が 50% (小テスト 20%、レポート 20%、コメント点 10%) の配分で総合評価する。出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件である。							
ディプロマポリシー	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性を身につける		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性を身につける		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力を身につける		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力を身につける	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		○			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	臨床心理学概論		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Clinical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-710
授業概要	臨床心理学は、心理臨床を实践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本講では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不適應や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。		
到達目標	1. 臨床心理学の基本的な概念・用語について、説明できる。 2. 心理的課題・問題について、ライフサイクルの観点から説明できる。 3. 代表的な心理療法の技法の特徴について、基礎的事項を説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキスト pp.2-17 の購読  授業：1. 臨床心理学入門（ミニ・レポート課題①）  復習：臨床心理学の歴史的背景と定義、意義</p> <p>【第2回】  予習：テキスト pp.20-26 の購読  授業：2. 臨床心理学の対象 1 正常と異常（ミニ・レポート課題②）  復習：正常・異常の判断基準、心理臨床家の視点（課題解説）</p> <p>【第3回】  予習：テキスト pp.27-32 の購読  授業：3. 臨床心理学の対象 2 乳幼児期（ミニ・レポート課題③）  復習：乳児期・幼児期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第4回】  予習：テキスト pp.32-45 の購読  授業：4. 臨床心理学の対象 3 児童期・青年期（ミニ・レポート課題④）  復習：児童期・青年期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第5回】  予習：テキスト pp.45-49 の購読  授業：5. 臨床心理学の対象 4 成人期（ミニ・レポート課題⑤）  復習：成人期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第6回】  予習：テキスト pp.49-54 の購読  授業：6. 臨床心理学の対象 5 老年期（ミニ・レポート課題⑥）  復習：老年期の特徴と発達課題（課題解説）</p> <p>【第7回】  予習：テキスト pp.56-88 の購読  授業：7. 臨床心理学的人間理解（ミニ・レポート課題⑦）  復習：心理アセスメント、心理面接、心理テスト、行動観察（課題解説）</p> <p>【第8回】  予習：テキスト pp.90-100 の購読  授業：8. 臨床心理学的援助の方法 1 環境調整・ガイダンス／精神力動的アプローチ（ミニ・レポート課題⑧）  復習：環境調整とガイダンス、精神分析療法の特徴（課題解説）</p> <p>【第9回】  予習：テキスト pp.100-107 の購読  授業：9. 臨床心理学的援助の方法 2 行動療法・認知行動療法（ミニ・レポート課題⑨）  復習：行動療法・認知行動療法の特徴（課題解説）</p> <p>【第10回】  予習：テキスト pp.107-112 の購読  授業：10. 臨床心理学的援助の方法 3 クライアント中心療法（ミニ・レポート課題⑩）  復習：クライアント中心療法の特徴（課題解説）</p> <p>【第11回】  予習：テキスト pp.113-126 の購読  授業：11. 臨床心理学的援助の方法 4 遊戯療法・芸術療法（ミニ・レポート課題⑪）  復習：遊戯療法・芸術療法（表現療法）の特徴（課題解説）</p> <p>【第12回】  予習：テキスト pp.170-178 の購読  授業：12. 臨床心理学的援助の方法 5 家族療法・グループアプローチ（ミニ・レポート課題⑫）</p>			

<p>復習：家族療法・グループアプローチの特徴（課題解説）  【第13回】  予習：テキスト pp.178-182 の購読  授業：13. 臨床心理学的援助の方法 6 コミュニティアプローチ（ミニレポート課題⑬）  復習：コミュニティアプローチの特徴（課題解説）  【第14回】  予習：テキスト pp.184-219 の購読  授業：14. 臨床心理学的実践の領域（ミニレポート課題⑭）  復習：教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、医療領域、産業領域、大学・研究所領域、私設心理相談領域（課題解説）  【第15回】  予習：テキスト pp.222-234 の購読  授業：15. 臨床心理学の学び方（ミニレポート課題⑮）  復習：自己理解、スーパーヴィジョン（課題解説）</p>								
授業開始前学習	指定されたテキストの目次に目を通し、この科目で必要とされる全体図を把握しておくが良い。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に課すミニレポートについては、授業の最後に毎回提出を求める。また、ミニレポートから把握された全体的傾向については、次回の講義で解説を加える。							
テキスト・教材	野島一彦編著 2020 『臨床心理学への招待 第2版』ミネルヴァ書房 その他に、必要に応じて適宜資料を提示する。							
参考書								
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、授業時間内に毎回課すミニレポート（2点×15回＝30点）と、確認テスト（70点）の合計100点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目	心理学入門Ⅰ・Ⅱ、心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学概論、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、心理療法論Ⅰ・Ⅱ							
その他	公認心理師の国家試験の受験資格を得るために必須の科目である。 授業中に口頭で重要性を指摘された点についても、ノートをとれるよう努力すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。							

科目名称	心理学研究法 I		
科目分類	130-311-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods in Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○ 研究における倫理、について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考えから、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。 第 I 期では、実証的研究法（量的研究）として心理学研究に数多く採用されている、実験法と調査法について、その方法論や手続きを学び、理解する。さらに心理学研究における倫理について理解する。		
到達目標	心理学の実証的研究法（量的研究）としての実験法と調査法について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題が設定されたとき、実験法・調査法でその課題を研究する研究計画を作成できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：心理学で用いられる研究方法について調べる  授業：心理学の研究方法について（教科書 1 頁から 2 頁）  復習：実験法、調査法、観察法を比較する</p> <p>【第 2 回】  予習：実験法の定義について調べる  授業：実験法とは（教科書 3 頁から 6 頁）  復習：実験法の必要性をまとめる</p> <p>【第 3 回】  予習：実験統制（コントロール）について調べる  授業：実験法の手続きと基本事項 1 問題の設定～反応の統制（教科書 7 頁から 10 頁）  復習：2 次変数のコントロールを確認する</p> <p>【第 4 回】  予習：実験デザイン（実験計画）について調べる  授業：実験法の手続きと基本事項 2 反応の観察、記録、測定、実験結果の分析（教科書 11 頁から 15 頁）  復習：具体的な「実験者の及ぼす効果」を考えてまとめる</p> <p>【第 5 回】  予習：資料（知覚の実験）を講読する  授業：実験法研究における倫理、実験法研究例（知覚の実験）（教科書 16 頁から 18 頁）  復習：資料（知覚の実験）の実験計画を確認する</p> <p>【第 6 回】  予習：資料（知覚の実験）の問題点、疑問点をまとめる  授業：実験法研究例から発展研究へ（教科書 19 頁から 22 頁）  復習：自分の発展研究（追実験）を作成する 実験法についての資料調べとレポート作成</p> <p>【第 7 回】  予習：質問紙法について調べる  授業：調査法とは（教科書 23 頁から 26 頁 第 1 回テスト（実験法）  復習：社会調査法の具体例を探す</p> <p>【第 8 回】  予習：国勢調査について調べる  授業：調査法の手続きと基本事項 1 分類と調査目標・調査仮説（教科書 27 頁から 31 頁） 実験法のレポート提出  復習：面接調査法と郵送調査法を比較する</p> <p>【第 9 回】  予習：資料の調査項目例を講読する  授業：調査法の手続きと基本事項 2 調査票の構成～調査の実施（教科書 32 頁から 36 頁） 第 1 回テストの講評  復習：調査項目の分類を整理する</p> <p>【第 10 回】  予習：標本抽出について調べる  授業：調査法の統計的知識（教科書 37 頁から 39 頁）  復習：サンプリング誤差に関する問題を解く</p> <p>【第 11 回】  予習：資料（調査法研究）を講読する  授業：調査法研究における倫理、調査法研究例（教科書 40 頁）  復習：資料（調査法研究）のについて方法を整理する</p> <p>【第 12 回】  予習：資料（調査法研究）の問題点、疑問点をまとめる  授業：調査法研究例から発展研究へ（教科書 40 頁）</p>			

復習：自分の発展研究（追試験）計画を作成する 調査法についての資料調べとレポート作成 【第13回】 予習：資料（心理学研究における統計）を講読する 授業：実験法におけるデータの分析（教科書 41 頁から 46 頁） 復習：資料の実験例について集計を行う 【第14回】 予習：資料（心理学研究における統計）の記述統計について講読する 授業：調査法におけるデータの分析（教科書 47 頁から 53 頁） 第2回テスト（調査法） 復習：資料の調査例について集計を行う 【第15回】 予習：ノートから実験法と調査法のキーワードをピックアップする 授業：実験法と調査法の比較、研究法用語の整理（教科書 54 頁から） 第2回テストの講評 調査法のレポート提出 復習：実験法と調査法のキーワードを整理して再確認する								
授業開始前学習	心理学の基本的知識を学習しておく授業が理解しやすい。 (心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)							
授業内課題の フィードバックの方法	授業 7 回目、14 回目を実施する単元テスト（第 1 回テスト、第 2 回テスト）については、1,2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。このほかに適宜資料を配布する。							
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣） アン・サール著、宮本・渡邊（訳）、2005、『心理学研究法入門』（新曜社）							
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題、復習課題)の評価(50%)、2 回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が 70 点台（成績評価「良」）になるように点数調整を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。							
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数 3 分の 2 以上の出席がない場合は、単位を認定しない。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理学研究法Ⅱ		
科目分類	130-311-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods in Psychology II	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○ 研究における倫理について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。第Ⅱ期では、実証的研究法として 方法論的価値が見直されている観察法と面接法について、その方法論と手続きを学び、理解する。また、研究によって得られた心理学データ（資料）の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きを理解する。		
到達目標	心理学の実証的研究法である観察法、検査法、面接法、さらに統計的分析について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題を設定し、観察法、検査法で実施する研究計画を作成する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：テキスト1頁～3頁の講読 授業：観察法とは、観察法の内容と分類の理解 テキスト(p) 1～3 復習：キーワードの確認、テキスト3頁の課題1, 2を自習			
【第2回】 予習：テキスト4頁～6頁の講読 授業：観察法の基本事項1（手続き～記録法まで） テキスト(p) 4～6 復習：キーワードの確認、テキスト6頁 課題1, 2, 3を自習			
【第3回】 予習：テキスト7頁～9頁の講読 授業：観察法の基本事項2（実施～信頼性の検討まで） テキスト(p) 7～9 復習：キーワードの確認、テキスト9頁 課題1, 2を自習			
【第4回】 予習：テキスト10頁～13頁の講読 授業：参加観察法 テキスト(p) 10～13 復習：キーワードの確認、テキスト12頁 課題1, 2を自習			
【第5回】 予習：配付資料 研究例の講読 授業：観察法研究例 テキスト(p) 14 復習：キーワードの確認、テキスト14頁 問題を自習			
【第6回】 予習：テキスト15頁～18頁の講読 授業：観察法研究例 テキスト(p) 15～18 復習：キーワードの確認、テキスト18頁 発展学習を自習 観察法についての資料調べとレポート作成			
【第7回】 予習：テキスト19頁～23頁の講読 授業：心理検査法とは テキスト(p) 19～23 第1回テスト（観察法） 復習：キーワードの確認、テキスト23頁 課題1			
【第8回】 予習：テキスト24頁～26頁の講読 授業：心理検査法2 テキスト(p) 24～26 観察法のレポート提出 復習：キーワードの確認			
【第9回】 予習：テキスト27頁～29頁の講読 授業：心理尺度の構成1（測定対象と尺度、尺度の信頼性と妥当性） テキスト(p) 27～29 第1回テストの講評 復習：キーワードの確認、テキスト29頁 課題1, 2, 3, 4を自習			
【第10回】 予習：テキスト30頁～32頁の講読 授業：心理尺度の構成2（尺度の作成 テキスト(p) 30～32 復習：キーワードの確認、テキスト32頁 発展学習を自習			
【第11回】 予習：テキスト33頁～35頁の講読 心理検査法、面接法の研究例を探す 授業：面接法とは テキスト(p) 33～35 復習：キーワードの確認、面接法研究例を探す			
【第12回】 予習：心理検査法、面接法の研究例を探す 授業：心理検査法、面接法の研究例について			

復習：心理検査法,面接法についての資料調べとレポート作成 【第13回】 予習：テキスト36頁～48頁の講読 授業：心理データ分析に必要な統計1(記述統計) テキスト(p)33～38 統計2(統計的検定) テキスト(p)39～48 復習：キーワードの確認、例題、課題を自習 【第14回】 予習：テキスト49頁～53頁の講読 授業：心理データの分析例1(調査法データ) テキスト(p)49～53 第2回テスト(心理検査法、面接法) 復習：キーワードの確認、例題、課題を自習 【第15回】 予習：テキスト54頁～のチェック、最重要語の整理(研究法用語の整理) 授業：研究法用語の整理 第2回テストの講評 心理検査法,面接法のレポート提出 復習：上記研究法に関わる用語を再チェックする。練習問題を自習する。								
授業開始前学習	心理学の基本的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。(心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)							
授業内課題のフィードバックの方法	授業7回目、14回目を実施する単元テスト(第1回テスト、第2回テスト)については、1,2週後(授業9、15回目)に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト(駒沢女子大学教科書シリーズ)・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。							
参考書	中島・子安等(編)、1999、『心理学辞典』(有斐閣) アン・サール著、宮本・渡邊(訳)、2005、『心理学研究法入門』(新曜社)							
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題、復習課題)の評価(50%)、2回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が70点台(成績評価「良」)になるように点数調整を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。							
その他	科学的に「ところ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、単位を認定しない(授業回数の3分の2以上の出席者のみを評価対象にする)。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間(2時間×15週) + 予習・復習時間60時間(4時間×15週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学統計法		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Statistics	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。 またパソコン実習を通じて、データ分析のスキルを身につける。		
到達目標	記述統計学の考え方を理解する。 表計算アプリ（EXCEL・Google スプレッドシート）を用いてグラフの作成やデータの分析ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：「統計 WEB－統計学の時間」の web ページを閲覧する  授業：統計学とデータ  復習：復習テスト（統計学とデータ）</p> <p>【第 2 回】  予習：統計学の時間「2. 度数分布とヒストグラム」「3. さまざまな代表値」を閲覧する  授業：ヒストグラムと代表値  復習：復習テスト（ヒストグラムと代表値）</p> <p>【第 3 回】  予習：統計学の時間「4. 箱ひげ図と幹葉表示」「6. 分散と標準偏差」を閲覧する  授業：散布度  復習：復習テスト（散布度）</p> <p>【第 4 回】  予習：統計学の時間「26. 相関分析」を閲覧する  授業：散布図と相関  復習：復習テスト（散布図と相関）</p> <p>【第 5 回】  予習：統計学の時間「26. 相関分析」を閲覧する  授業：相関係数  復習：復習テスト(相関係数)</p> <p>【第 6 回】  予習：統計学の時間「27. 回帰分析」を閲覧する  授業：回帰直線  復習：復習テスト（回帰直線）</p> <p>【第 7 回】  予習：統計学の時間「5. データの集計と表現」を閲覧する  授業：クロス表と連関  復習：復習テスト（クロス表と連関）</p> <p>【第 8 回】  予習：配付プリント（第 1～10 回）の購読  授業：グループ実習（1）  復習：レポートの作成の準備</p> <p>【第 9 回】  予習：配付プリント（第 1～10 回）の購読  授業：グループ実習（2）  復習：レポートの作成</p> <p>【第 10 回】  予習：統計学の時間「9. 確率と期待値」「11. 確率変数と確率分布」を閲覧する  授業：確率と確率分布（1）確率の基本  復習：復習テスト（確率と確率分布（1））</p> <p>【第 11 回】  予習：「13. いろいろな確率分布 1」「14. いろいろな確率分布 2」「15. いろいろな確率分布 3」を閲覧する  授業：確率と確率分布（2）二項分布と正規分布  復習：復習テスト（確率と確率分布（2））</p> <p>【第 13 回】  予習：統計学の時間「23-1. 検定とは」「23-2. 検定で使う用語」を閲覧する  授業：統計的仮説検定の考え方（1）二項検定  復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（1））</p> <p>【第 14 回】</p>			

<p>予習：統計学の時間「24-3. 2 標本 t 検定とは」「24-1. 母平均の検定」を閲覧する          授業：統計的仮説検定の考え方（2）平均値の差の検定          復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（2））  <b>【第 15 回】</b>          予習：配付プリント（第 1～14 回）の購読          授業：アンケートデータの分析と期末レポートの作成の準備          復習：期末レポートの作成</p>									
授業開始前学習	パソコンの基本操作、表計算アプリの使い方（グラフの作成、関数）を学んでおくとよい。 なお受講にあたって、数学的な知識は一切不要である。								
授業内課題の フィードバックの方法	web で復習テストを行い、結果をフィードバックする。								
テキスト・教材	web サイト「統計 WEB – 統計学の時間」 { <a href="https://bellcurve.jp/statistics/course/">https://bellcurve.jp/statistics/course/</a> }								
参考書	本丸諒『文系でも仕事に使える統計学はじめての一步』かんき出版（2018） （授業で使用するわけではありませんが、わかりやすく書かれたテキストなので購入をお勧めします）								
評価の基準と方法	授業への取り組み（復習テスト含む）（40%）、レポート（30%）、テスト（30%）によって評価を行う。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			○		○		◎		
関連科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法、心理データ解析法								
その他	復習テストは Google のアンケートツールで行います（内容は、統計学の用語や統計量の計算などです）。 期末試験は、復習テストの内容をもとに出題します（事前に公開した問題の中から出題します）。 グループ実習では簡単な web アンケートを作成し、データを収集・分析、その結果をレポートにまとめる課題を行う予定です。 期末課題として web アンケートのデータを収集・分析した結果をレポートにまとめる課題を課す予定です。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした 教育内容									

科目名称	心理学実験 I		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：実験（心理学）について調べる  授業：授業内容説明、心理学実験について、実験の練習  復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する</p> <p>【第 2 回】  予習：錯視について調べる  授業：錯視の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する  授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：錯視の実験レポート作成</p> <p>【第 4 回】  予習：学習の理論、学習の転移について調べる  授業：両側性転移の実験 1  復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する  授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：両側性転移の実験レポート作成</p> <p>【第 6 回】  予習：触空間弁別閾、極限法について調べる  授業：触空間 2 点閾の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する  授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：触空間弁別閾の実験レポート作成</p> <p>【第 8 回】  予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる  授業：重さの感覚尺度の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する  授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成</p> <p>【第 10 回】  予習：連合学習、学習曲線について調べる  授業：連合学習の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する  授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：連合学習の実験レポート作成</p> <p>【第 12 回】  予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する  授業：社会的態度尺度の測定 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について</p>			

<p>復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成  【第13回】  予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする  授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）  復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する  【第14回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集・分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果を整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する  授業：グループ実験3 発表資料の作成、グループ実験の発表（報告）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方について、適宜、全体で講評をする。また、個別に指導を行うこともある。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜、実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65点とレポート評価 35点とする。単位取得には、少なくとも全体の3分の2以上の出席と、3分の2以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60時間 + 予習・復習時間 30時間（2時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験 I		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第 1 回】 予習：実験（心理学）について調べる 授業：授業内容説明、心理学実験について、実験の練習 復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する			
【第 2 回】 予習：錯視について調べる 授業：錯視の実験 1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第 3 回】 予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について 復習：錯視の実験レポート作成			
【第 4 回】 予習：学習の理論、学習の転移について調べる 授業：両側性転移の実験 1 復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第 5 回】 予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について 復習：両側性転移の実験レポート作成			
【第 6 回】 予習：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業：触空間 2 点閾の実験 1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第 7 回】 予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について 復習：触空間弁別閾の実験レポート作成			
【第 8 回】 予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業：重さの感覚尺度の実験 1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第 9 回】 予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について 復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成			
【第 10 回】 予習：連合学習、学習曲線について調べる 授業：連合学習の実験 1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第 11 回】 予習：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について 復習：連合学習の実験レポート作成			
【第 12 回】 予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業：社会的態度尺度の測定 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について			

<p>復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成  【第13回】  予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする  授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）  復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する  【第14回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集・分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果を整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する  授業：グループ実験3 発表資料の作成、グループ実験の発表（報告）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方について、適宜、全体で講評をする。また、個別に指導を行うこともある。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜、実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも全体の3分の2以上の出席と、3分の2以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験 I		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：実験（心理学）について調べる  授業：授業内容説明、心理学実験について、実験の練習  復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する</p> <p>【第 2 回】  予習：錯視について調べる  授業：錯視の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する  授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：錯視の実験レポート作成</p> <p>【第 4 回】  予習：学習の理論、学習の転移について調べる  授業：両側性転移の実験 1  復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する  授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：両側性転移の実験レポート作成</p> <p>【第 6 回】  予習：触空間弁別閾、極限法について調べる  授業：触空間 2 点閾の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する  授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：触空間弁別閾の実験レポート作成</p> <p>【第 8 回】  予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる  授業：重さの感覚尺度の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する  授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成</p> <p>【第 10 回】  予習：連合学習、学習曲線について調べる  授業：連合学習の実験 1 説明と実験実施  復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する  授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について  復習：連合学習の実験レポート作成</p> <p>【第 12 回】  予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する  授業：社会的態度尺度の測定 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について</p>			

<p>復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成  【第13回】  予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする  授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）  復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する  【第14回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集・分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果を整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する  授業：グループ実験3 発表資料の作成、グループ実験の発表（報告）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方について、適宜、全体で講評をする。また、個別に指導を行うこともある。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜、実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65点とレポート評価 35点とする。単位取得には、少なくとも全体の3分の2以上の出席と、3分の2以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60時間 + 予習・復習時間 30時間（2時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験Ⅱ		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第2回】 予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果2 結果分析とレポート作成について 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成			
【第3回】 予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第4回】 予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：一対比較法の実験レポート作成			
【第5回】 予習：SD法について調べる 授業：SD法によるイメージの測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、SD法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第6回】 予習：SD法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD法によるイメージの測定2 結果分析とレポート作成について 復習：SD法によるイメージの測定レポート作成			
【第7回】 予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成			
【第8回】 予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第9回】 予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定2 結果分析とレポート作成について 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成			
【第10回】 予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第11回】 予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：認知的葛藤の実験レポート作成			
【第12回】 予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）			

<p>復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材等の確認  【第13回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション）  復習：実験データを整理する  【第14回】  予習：実験テーマの文献を調査する  授業：グループ実験3 データの分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果について整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。発表の用意をする  授業：グループ実験4 発表資料の作成、グループ実験の発表（グループディスカッション）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験Ⅱ		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第2回】 予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果2 結果分析とレポート作成について 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成			
【第3回】 予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第4回】 予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：一対比較法の実験レポート作成			
【第5回】 予習：SD法について調べる 授業：SD法によるイメージの測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、SD法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第6回】 予習：SD法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD法によるイメージの測定2 結果分析とレポート作成について 復習：SD法によるイメージの測定レポート作成			
【第7回】 予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成			
【第8回】 予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第9回】 予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定2 結果分析とレポート作成について 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成			
【第10回】 予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第11回】 予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：認知的葛藤の実験レポート作成			
【第12回】 予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）			

<p>復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材等の確認  【第13回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション）  復習：実験データを整理する  【第14回】  予習：実験テーマの文献を調査する  授業：グループ実験3 データの分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果について整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。発表の用意をする  授業：グループ実験4 発表資料の作成、グループ実験の発表（グループディスカッション）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理学実験Ⅱ		
科目分類	130-311-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第2回】 予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果2 結果分析とレポート作成について 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成			
【第3回】 予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第4回】 予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：一対比較法の実験レポート作成			
【第5回】 予習：SD法について調べる 授業：SD法によるイメージの測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、SD法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第6回】 予習：SD法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD法によるイメージの測定2 結果分析とレポート作成について 復習：SD法によるイメージの測定レポート作成			
【第7回】 予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 説明と実験実施。結果分析とレポート作成について 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成			
【第8回】 予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第9回】 予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定2 結果分析とレポート作成について 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成			
【第10回】 予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験1 説明と実験実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する			
【第11回】 予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験2 結果分析とレポート作成について 復習：認知的葛藤の実験レポート作成			
【第12回】 予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション）			

<p>復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材等の確認  【第13回】  予習：グループ実験の実施を準備する  授業：グループ実験2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション）  復習：実験データを整理する  【第14回】  予習：実験テーマの文献を調査する  授業：グループ実験3 データの分析（グループディスカッション）  復習：実験の分析結果について整理する  【第15回】  予習：実験テーマの文献を調査する。発表の用意をする  授業：グループ実験4 発表資料の作成、グループ実験の発表（グループディスカッション）  復習：グループ実験レポートの作成</p>								
授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜実習資料を配付する。							
参考書	実習資料に推薦図書に掲載する。							
評価の基準と方法	実習状況とレポート(授業期間内提出)により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。単位取得には、少なくとも、3 分の 2 以上の出席とレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○
関連科目	「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他	<p>パソコンを使用するので、Word、Excel等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。  各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から1週間を過ぎた場合は受け取らない。  実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。  a～dクラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。</p> <p>★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること（指定クラスは掲示板を参照）。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	知覚・認知心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Perception and Cognition	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	周囲の環境を知覚する、過去の出来事を思い出す、考えて判断を下すといった心の働きは、「認知」機能と呼ばれるが、そうした「認知」の働きは、どのような性質を持ち、どのような基盤の上に成り立っているのだろうか？この講義では、簡単な実験や観察を行いながら人間の認知機能、特に知覚・記憶・思考の性質やしぐみについて体験的に学ぶ。		
到達目標	知覚・記憶・思考の研究法、基本原理を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：シラバスを読み用語を調べる  授業：知覚・認識の働きと知覚・認知心理学の方法  復習：復習テスト（知覚・認識の働きと知覚・認知心理学の方法に関するキーワードの確認）</p> <p>【第2回】  予習：レジュメ(色の知覚)の購読  授業：色の知覚  復習：復習テスト（色の知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第3回】  予習：レジュメ(空間と動きの知覚)の購読  授業：空間と運動の知覚  復習：復習テスト（空間と運動の知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第4回】  予習：レジュメ(知覚の知性)の購読  授業：知覚の知性  復習：復習テスト（知覚の知性に関するキーワードの確認）</p> <p>【第5回】  予習：レジュメ(顔・物体の知覚)の購読  授業：顔・物体の知覚  復習：復習テスト（顔・物体の知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第6回】  予習：レジュメ（注意と知覚）の購読  授業：注意と知覚  復習：復習テスト（注意と知覚に関するキーワードの確認）</p> <p>【第7回】  予習：レジュメ（記憶の測定と分類）の購読  授業：記憶の測定と分類  復習：復習テスト（記憶の測定と分類に関するキーワードの確認）</p> <p>【第8回】  予習：レジュメ（記憶の原理）の購読  授業：記憶の原理  復習：復習テスト（記憶の原理に関するキーワードの確認）</p> <p>【第9回】  予習：レジュメ（記憶術と学習法）の購読  授業：記憶術と学習法  復習：復習テスト（記憶術と学習法に関するキーワードの確認）</p> <p>【第10回】  予習：レジュメ（記憶の忘却と変容）の購読  授業：記憶の忘却と変容  復習：復習テスト（記憶の忘却と変容に関するキーワードの確認）</p> <p>【第11回】  予習：レジュメ（カテゴリーと知識）の購読  授業：カテゴリーと知識  復習：復習テスト（カテゴリーと知識に関するキーワードの確認）</p> <p>【第12回】  予習：レジュメ（判断と意思決定）の購読  授業：判断と意思決定  復習：復習テスト（判断と意思決定に関するキーワードの確認）</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : レジメ (思考のバイアス) の購読 授業 : 思考のバイアス 復習 : 復習テスト (思考のバイアスに関するキーワードの確認) 【第 14 回】 予習 : レジメ (潜在認知) の購読 授業 : 潜在認知 復習 : 復習テスト (潜在認知に関するキーワードの確認) 【第 15 回】 予習 : レジメ (推論と思考) の購読 授業 : 推論と思考 復習 : 復習テスト (推論と思考に関するキーワードの確認)								
授業開始前学習	特になし							
授業内課題の フィードバックの方法	web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする。							
テキスト・教材	使用しない (毎回 PDF 等を配布する)							
参考書	服部雅史ほか『基礎から学ぶ認知心理学－人間の認識の不思議』有斐閣 (2015 年)							
評価の基準と方法	授業への取り組み (復習テスト・感想含む) (35%)、課題 (35%)、期末試験 (30%)により評価を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目	学習・言語心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他	簡単な知覚や記憶の実験を行う課題を 6～7 回課す予定である (単位取得にあたっては課題を 50%以上提出することが必要)。 毎回授業後に復習テストと授業の感想の提出を課す予定である。 期末テストは、復習テストをもとに作成した予想問題を公開し、その中から出題する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	学習・言語心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Learning and Language	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人や動物には、経験から学習し、行動を適応的に修正する仕組みが備わっている。講義の前半では学習の性質やしぐみについて学ぶ。また、人はことばを使って考えたり、複雑な情報を他者に伝達したりすることができる。講義の後半では、言語心理学、発達心理学、動物心理学の知見を交えながら人間の言語能力やコミュニケーションの性質・しぐみについて学ぶ。		
到達目標	学習心理学・言語心理学の研究法、基礎的知見を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回]  予習：シラバスを読み用語を調べる  授業：非連合学習と古典的条件づけ  復習：復習テスト（非連合学習と古典的条件づけに関するキーワードの確認）</p> <p>【第2回]  予習：レジュメ（道具的条件づけ）の購読  授業：道具的条件づけ  復習：復習テスト（道具的条件づけに関するキーワードの確認）</p> <p>【第3回]  予習：レジュメ（社会的学習・技能学習）の購読  授業：社会的学習  復習：復習テスト（社会的学習・技能学習）に関するキーワードの確認）</p> <p>【第4回]  予習：レジュメ（回避学習・動機づけ）の購読  授業：回避学習・動機づけ  復習：復習テスト（回避学習・動機づけ）に関するキーワードの確認）</p> <p>【第5回]  予習：レジュメ（学習研究の応用）の購読  授業：学習研究の応用  復習：復習テスト（学習研究の応用に関するキーワードの確認）</p> <p>【第6回]  予習：レジュメ（言語能力の起源）の購読  授業：言語能力の起源  復習：復習テスト（言語能力の起源」に関するキーワードの確認）</p> <p>【第7回]  予習：レジュメ（言語能力の生物学的基盤）の購読  授業：言語能力の生物学的基盤  復習：復習テスト（言語能力の生物学的基盤に関するキーワードの確認）</p> <p>【第8回]  予習：レジュメ（言語の生得説）の購読  授業：言語の生得説  復習：復習テスト（言語の生得説に関するキーワードの確認）</p> <p>【第9回]  予習：レジュメ（言語と認知）の購読  授業：言語と認知  復習：復習テスト（言語と認知に関するキーワードの確認）</p> <p>【第10回]  予習：レジュメ（音声知覚と単語認知）の購読  授業：音声知覚と単語認知  復習：復習テスト（音声知覚と単語認知に関するキーワードの確認）</p> <p>【第11回]  予習：レジュメ（文の理解と記憶）の購読  授業：文の理解と記憶  復習：復習テスト（文の理解と記憶に関するキーワードの確認）</p> <p>【第12回]  予習：レジュメ（語用論とコミュニケーション）の購読  授業：語用論とコミュニケーション  復習：復習テスト（語用論とコミュニケーションに関するキーワードの確認）</p> <p>【第13回]</p>			

予習：レジュメ（比喩と認知）の購読 授業：比喩と認知 復習：復習テスト（比喩と認知に関するキーワードの確認） 【第14回】 予習：レジュメ（コミュニケーションの発達）の購読 授業：コミュニケーションの発達 復習：復習テスト（コミュニケーションの発達に関するキーワードの確認） 【第15回】 予習：レジュメ（ことばの発達）の購読 授業：ことばの発達 復習：復習テスト（ことばの発達に関するキーワードの確認）								
授業開始前学習	特になし							
授業内課題の フィードバックの方法	webで復習テストを実施し、結果をフィードバックする							
テキスト・教材	使用しない（毎回レジュメを配布する）							
参考書	初回授業時に参考書を紹介する。また授業資料に参考文献を掲載する。							
評価の基準と方法	授業への取り組み（復習テスト・感想）（35%）、課題（35%）、期末試験（30%）により評価を行う。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目	知覚・認知心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他	宿題・レポートとして実験やことばの分析を行う課題を5～6回課す予定である（単位を取得するには課題を3回以上提出する必要がある）。 毎回授業後に復習テストと感想の提出が求められる。 期末テストは、事前に予想問題を公開しその中から出題する予定である。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	感情・人格心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology of Emotion and Personality	授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業概要	私たちは誰もが『感情』と『人格』を持って生きている。それらのありようは人によって異なり、“その人らしさ”を構成している。つまり、『感情』と『人格』について学ぶことは、自分自身への理解の深化につながりうるだろう。本講義では、『感情』および『人格』に関する心理学的理論について学び、受講生が“自分らしさ”についてより深く考えられるようになることを目指す。		
到達目標	『感情』および『人格』に関する心理学的理論について、基礎的なものを学ぶ。学んだ内容をふまえながら、受講生が自分自身の『感情』や『人格』について振り返り、より理解を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回 予習：『感情』および『人格』という言葉の意味を調べておく 授業：イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など） 復習：今後の授業で特に学びたい点についてまとめておく</p> <p>第2回 予習：日常的に体験する感情について振り返る 授業：感情が存在する理由 復習：配付資料を見直す</p> <p>第3回 予習：感情と身体の関係について考える 授業：感情はいかに生起するのか：感情と身体 復習：配付資料を見直す</p> <p>第4回 予習：子どもの頃と現在の感情表現の仕方を比較する 授業：感情の発達 復習：配付資料を見直す</p> <p>第5回 予習：印象深い記憶（思い出）にはどのような感情が伴っているか思い返す 授業：感情と記憶 復習：配付資料を見直す</p> <p>第6回 予習：『類型』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か①：類型論 復習：配付資料を見直す</p> <p>第7回 予習：『特性』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か②：特性論 復習：配付資料を見直す</p> <p>第8回 予習：子どもの頃の自分の人格について思い返す 授業：人格の形成過程①：乳幼児期 復習：配付資料を見直す</p> <p>第9回 予習：自らの人格の変化・成長について振り返る 授業：人格の形成過程②：学童期～老年期 復習：配付資料を見直す</p> <p>第10回 予習：他者の人格を測る方法についてイメージする 授業：人格の測定①：質問紙法 復習：配付資料を見直す</p>			

<p>第 11 回          予習：『投映』という言葉の意味について調べておく          授業：人格の測定②：投映法          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 12 回          予習：絵を描くことで何が表現されるのか振り返っておく          授業：人格の測定③：描画法          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 13 回          予習：自分の人格の健康な部分とそうでない部分について省みる          授業：人格と病理：パーソナリティ障害          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 14 回          予習：『男らしさ』『女らしさ』について自分が抱いているイメージを整理しておく          授業：人格と性別          復習：配付資料を見直す</p> <p>第 15 回          予習：これまでの授業の疑問点を整理する          授業：感情と人格の関わり          復習：期末レポートを作成する</p>								
授業開始前学習	特に必要ない。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業後に寄せられた感想や疑問に対しては、次回以降の授業の中で適宜回答する。							
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書	『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかるパーソナリティ心理学』（ミネルヴァ書房）							
評価の基準と方法	授業の取り組み状況（60点）と期末レポート課題（40点）をもとに総合的に評価をする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他	講義順序が一部変更となる場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。臨床現場において質問紙法や投映法を用いてクライアントの感情・人格にアプローチした経験も踏まえ、講義を行う。							

科目名称	神経・生理心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Neuro- and Physiological Psychology	授業区分	講義
科目責任者	玉木 宗久	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	玉木 宗久	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>脳の損傷によって生じる高次脳機能障害の多様な様相を学びながら、心をつくりだしている脳の構造と機能についての理解を深めると共に、近年、著しい進歩を遂げている脳科学の知見を取り上げながら、神経心理学の現状と課題について議論することを目的とする。</p> <p>なお、各障害の特性については、可能な範囲で疑似体験等を行いながら、体験的に理解できるようにする。</p>		
到達目標	高次脳機能障害、及び脳の構造と機能の関係に関する基礎的な知識を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：テキストp 1-6の確認  授業：オリエンテーション（授業、評価方法等について／神経心理学とは）  復習：テキストp 1-6の確認</p> <p>【第2回】  予習：テキストp 6-13の確認  授業：神経心理学の歴史  復習：テキストp 6-13の確認</p> <p>【第3回】  予習：テキストp 14-37の確認  授業：脳の解剖学的基础と計測法  復習：テキストp 14-37の確認</p> <p>【第4回】  予習：テキストp 47-52の確認  授業：視覚の障害（失認を中心に）  復習：テキストp 47-52の確認</p> <p>【第5回】  予習：テキストp 53-58の確認  授業：注意の障害（半側空間無視を中心に）  復習：テキストp 53-58の確認</p> <p>【第6回】  予習：テキストp 58-65の確認  授業：記憶の障害（健忘症を中心に）  復習：テキストp 58-65の確認</p> <p>【第7回】  予習：テキストp 65-72の確認  授業：行為の障害（失行症を中心に）  復習：テキストp 65-72の確認</p> <p>【第8回】  予習：テキストp 72-77の確認  授業：言語の障害（失語症を中心に）  復習：テキストp 72-77の確認</p> <p>【第9回】  予習：テキストp 77-82の確認  授業：社会性の障害  復習：テキストp 77-82の確認</p> <p>【第10回】  予習：テキストp 82-94の確認  授業：半球間離断症候群／遂行機能の障害</p>			

<p>復習：テキストp 8 2-9 4の確認</p> <p>【第11回】          予習：テキストp 9 5-1 0 2の確認          授業：学習障害（LD）          復習：テキストp 9 5-1 0 2の確認</p> <p>【第12回】          予習：テキストp 1 0 2-1 0 8の確認          授業：注意欠如多動症（ADHD）          復習：テキストp 1 0 2-1 0 8の確認</p> <p>【第13回】          予習：テキストp 1 0 8-1 1 3の確認          授業：自閉症スペクトラム症（ASD）          復習：テキストp 1 0 8-1 1 3の確認</p> <p>【第14回】          予習：テキストp 1 2 4-1 5 5の確認          授業：アセスメントと支援          復習：テキストp 1 2 4-1 5 5の確認</p> <p>【第15回】          予習：テキストp 1-1 5 5の確認（必要があるところ）          授業：まとめ/新しい障害観          復習：テキストp 1-1 5 5の確認（必要があるところ）</p>								
授業開始前学習	認知（心理学）の基礎を学習しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内の課題としては、各授業後に感想を書いてもらう。感想の中で出てきた疑問や質問に対しては、授業の中で説明を加えるようにする。							
テキスト・教材	テキスト 柴崎光世・橋本優花里（2021）『手を動かしながら学ぶ神経心理学』朝倉書店（東京）							
参考書	河内十郎 著（2013）『神経心理学—高次脳機能研究の現状と課題—』培風館（東京） ※以前授業のテキストとして使っていた本です。  その他の資料 適宜、補足資料を配付する							
評価の基準と方法	課題レポートの成績で評価を行う。単位修得には試験粗点で60%以上の得点をとることが必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	発達障害等の障害のある児童生徒への教育相談、及び学校コンサルテーションの実務経験があり、現在も公認心理師、特別支援教育スーパーバイザーとして、それらの活動に従事している。また、研究においては、NIRS、MRI、脳波、アイトラッキング等による生理指標計測を実施してきた。現在は、神経心理学のアセスメント尺度（遂行機能に関わるもの）の開発に従事している。これらの経験を生かし、高次脳機能障害及び脳の構造と機能に関する基礎的な知識について講義を行う。							

科目名称	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学 I)		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Social, Group and Family Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>本授業では、「社会・集団」の心理をテーマに、心理学のなかでも「個人」から「集団」の心理まできわめて広範囲な心理的事象を研究対象とする社会心理学の基礎を概観する。</p> <p>個人の心理とは「自己」に関連する心理、集団の心理とは、家庭における「家族」、学校・職場といった「組織」、災害時などの「集合行動」、国によって異なる「文化」の心理などである。</p> <p>このような個人と集団の心理について、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響を取り上げる。</p>		
到達目標	<p>社会心理学の研究対象に社会・文化、組織・集団、対人関係、個人（自己）の心理があることがわかる。</p> <p>社会心理学における「社会・文化」、「集団・組織」、「対人関係」の中での個人と他者との相互作用や影響に関わる基礎概念や理論を学び、研究対象ごとに社会的行動のメカニズムを説明でき、自分の考えを明確にできる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
第1回	<p>予習：第1章（テキスト1頁～17頁）の購読</p> <p>授業：「社会心理学の成立とその独自性」（テキスト1頁～17頁）</p> <p>復習：社会心理学における歴史と心理学の中での独自性の確認</p>		
第2回	<p>予習：第2章（テキスト19頁～36頁）の購読</p> <p>授業：「社会の見方（社会的知覚）」（テキスト19頁～36頁）</p> <p>復習：社会的知覚の概念と研究の確認</p>		
第3回	<p>予習：第3章（テキスト37頁～51頁）の購読</p> <p>授業：「行動の結果と原因についての認知」（テキスト37頁～51頁）</p> <p>復習：社会的認知の概念と原因帰属の研究の確認</p>		
第4回	<p>予習：第4章（テキスト53頁～68頁）の購読</p> <p>授業：「個人に特有な行動の一貫性」（テキスト53頁～68頁）</p> <p>復習：パーソナリティ認知の概念と研究の確認</p>		
第5回	<p>予習：第5章（テキスト69頁～74頁）の購読</p> <p>授業：「自己の見方1（自己意識、自己概念）」（テキスト69頁～74頁）</p> <p>復習：社会心理学における自己意識、自己概念の研究の確認</p>		
第6回	<p>予習：第5章（テキスト74頁～82頁）の購読</p> <p>授業：「自己の見方2（自尊心、自己呈示、自己開示）」（テキスト74頁～82頁）</p> <p>復習：社会心理学における自尊心、自己呈示、自己開示の研究の確認</p>		
第7回	<p>予習：第6章（テキスト83頁～100頁）の購読</p> <p>授業：「対人関係の親密化と悩ましさのメカニズム」（テキスト83頁～100頁）</p> <p>復習：対人魅力と親密な関係の研究の確認</p>		
第8回	<p>予習：第7章（テキスト101頁～108頁）の購読</p> <p>授業：「他者への攻撃」（テキスト101頁～108頁）</p> <p>復習：攻撃行動と反社会的行動の研究の確認</p>		
第9回	<p>予習：第7章（テキスト108頁～119頁）の購読</p> <p>授業：「他者への援助」（テキスト108頁～119頁）</p> <p>復習：援助行動と向社会的行動の研究の確認</p>		
第10回	<p>予習：第8章（テキスト121頁～126頁）の購読</p> <p>授業：「人との関わり方（コミュニケーション）」（テキスト121頁～126頁）</p> <p>復習：コミュニケーション、社会的スキル、セルフモニタリングの研究の確認</p>		
第11回	<p>予習：第9章（テキスト137頁～157頁）の購読</p> <p>授業：「集団とリーダーシップ」（テキスト137頁～157頁）</p> <p>復習：集団、集団規範、リーダーシップ研究の確認</p>		
第12回	<p>予習：第10章（テキスト159頁～178頁）の購読</p> <p>授業：「他者への影響力（同調と服従）」（テキスト159頁～178頁）</p> <p>復習：同調行動、権威への服従の研究の確認</p>		
第13回	<p>予習：第11章（テキスト179頁～195頁）の購読</p> <p>授業：「集合現象の不思議－流言・群集・流行－」（テキスト179頁～195頁）</p> <p>復習：集合行動、流言、群衆、流行の研究の確認</p>		
第14回	<p>予習：第12章（テキスト197頁～218頁）の購読</p> <p>授業：「文化の影響」（テキスト197頁～218頁）</p> <p>復習：異文化比較、文化的自己観、集団主義、個人主義の研究の確認</p>		
第15回	<p>予習：授業で学んだことの総復習（テキスト1頁～218頁）</p> <p>授業：社会・集団心理学の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント）</p> <p>復習：社会心理学の研究から自己、対人関係、集団、文化の心理を考察</p>		

授業開始前学習	心理学の概論書などを読み、心理学の基礎知識があることが望ましい。受講生自ら、自分自身の周囲にある身近な心理現象、自分のこころ、集団、人間関係のあり方に関心をもって講義に参加してほしい。								
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。								
テキスト・教材	中里至正・松井洋・中村真編著『新・社会心理学の基礎と展開』（八千代出版） 2014年発行 2,400円＋税								
参考書	授業の中で推薦図書を紹介する。								
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テストへの参加：40点）によって総合的に評価する。								
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			○	△	◎	○			
関連科目	「対人関係論」で紹介される研究とは、応用・理論的背景において密接な関連がある。								
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストも実施する。 授業資料の取り扱いについては授業中に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 社会心理学は、心理学のなかでも対象範囲が広く（個人～集団）、身近な社会現象・対人行動に積極的な問題意識をもって臨んでほしい。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Social, Group and Family Psychology Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	<p>昨今、家族を巡っては、非婚晩婚化、少子高齢化、核家族化等が指摘されるが、ほかにも児童虐待や DV、離婚と父母の不和に伴う子どもの問題等、家族や家庭が抱える問題がある。また、非行の背景に、家庭の機能不全や家族間の葛藤が生じていることもある。</p> <p>それぞれに存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとつての意味を考察していく。特に個人の発達課題とともに、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした上で、家族支援の理論と技法に関する授業を行う。</p>		
到達目標	<p>家族を系統的及び力動的に理解する視点を学び、家族のライフサイクルとの中で生じる多様な問題について理解を深める。また、家族関係において生じる諸問題について、概要と支援方法を学ぶ。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第 1 回】  予習：最近 1 箇月にあった家族に関するニュースや報道について調べる。  授業：イントロダクション（家族と社会を知る意義、家族を取り巻く状況）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p>【第 2 回】  予習：民法（家族法）を眺めてくる。  授業：家族の定義（家族の様々な定義、戸籍制度と民法から見た家族等）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p>【第 3 回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族システム理論の基本  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p>【第 4 回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族の特徴を理解するための鍵概念①（家族の構造と機能）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p>【第 5 回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族の特徴を理解するための鍵概念②（家族の発達の側面と家族ライフサイクル論）  復習：第 4 回及び第 5 回の内容（鍵概念）をまとめる。</p> <p>【第 6 回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族のライフサイクル(配偶者選択から結婚へ)  復習：アサーションについて振り返り学習を行う。</p> <p>【第 7 回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族のライフサイクル(新婚期の夫婦)  復習：授業内に行ったワーク（ペアワーク等）を振り返り、まとめる。</p> <p>【第 8 回】  予習：出産、育児をめぐる社会問題について調べる。  授業：家族のライフサイクル(子どもの出生と育児の段階)  復習：授業内に検討した課題について、さらに調べる。</p> <p>【第 9 回】  予習：児童期・青年期の子どもがいる家族が抱える問題について調べる。  授業：家族のライフサイクル(児童期・青年期の子どもとその家族)  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p>【第 10 回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族のライフサイクル（中年期の夫婦）  復習：授業内に行った事例研究の問題をまとめる。</p> <p>【第 11 回】  予習：高齢者を取り巻く家族問題について調べる。  授業：家族のライフサイクル(老年期の家族)  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p> <p>【第 12 回】  予習：最近の児童虐待に関するニュースや記事を調べる。  授業：家族が直面する問題①（児童虐待）</p>			

<p>復習：参考図書や配布資料を閲読する。  【第13回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族が直面する問題②（DV）  復習：DVの加害と被害の概要についてまとめる。  【第14回】  予習：配布資料を閲読する。  授業：家族が直面する問題③（親の離婚と子どもをめぐる問題）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。  【第15回】  予習：最近1年間にあった非行に関するニュースや記事を調べる。  授業：家族が直面する問題④（子どもの非行）  復習：参考図書や配布資料を閲読する。</p>								
授業開始前学習	家族が直面する問題や家族に関する法制度等に関するニュース、インターネット記事等に関心を持っておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	小レポート等やリアクションペーパーの内容は、次講の冒頭に解説等を行う。							
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。 テキストは特に指定しないが、中釜洋子ほか著『家族心理学』（有斐閣ブックス）を購入しておくのが望ましい。							
参考書								
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、レポート課題により60%、授業で指示する課題（小レポート等）による40%の配分で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として家庭事件の実務経験がある。これらの経験を踏まえて、講義を行い、適宜、事例を紹介する。							

科目名称	発達心理学 I		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Developmental Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	生涯にわたる人間の発達を身体的・心理的・社会的な観点からとらえ、その過程における基本的かつ重要な発達心理学上の知見について講義形式で解説する。中でも特に、乳児期から青年期に至るまでの事柄を中心に取り上げる。		
到達目標	主に乳幼児期から青年期にかけての身体的・心理的・社会的な発達に関する基礎的な知識を習得し、その知識に基づいて自身や他者の発達上の問題について思考する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：発達心理学について調べる  授業：発達心理学が扱う「発達」とは何か  復習：自身が発達心理学を学ぶ目的や意義について振り返る</p> <p>【第 2 回】  予習：教科書の該当箇所（p.1-22）の講読と疑問点の抽出  授業：乳児期 I：乳児が感じる世界  復習：乳児期における認知の特徴と発達、乳児相手の調査方法について整理する</p> <p>【第 3 回】  予習：教科書の該当箇所（p.23-46）の講読と疑問点の抽出  授業：乳児期 II：他者とのかかわり  復習：愛着（アタッチメント）や、共同注意の発達について整理する</p> <p>【第 4 回】  予習：教科書の該当箇所（p.47-56）の講読と疑問点の抽出  授業：幼児期 I：幼児期の言語発達  復習：ピアジェの発達段階、言語と表象について整理する</p> <p>【第 5 回】  予習：教科書の該当箇所（p.56-68）の講読と疑問点の抽出  授業：幼児期 II：心の理論  復習：誤信念課題や、心の理論、社会的知能の発達について整理する</p> <p>【第 6 回】  予習：教科書の該当箇所（p.69-87）の講読と疑問点の抽出  授業：幼児期 III：自己の育ちと他者との関係  復習：幼児期における自己の発達や、遊びの発達について整理する</p> <p>【第 7 回】  予習：教科書の該当箇所（p.88-96）の講読と疑問点の抽出  授業：児童期 I：論理的思考のはじまり  復習：具体的操作期の特徴について整理する</p> <p>【第 8 回】  予習：教科書の該当箇所（p.97-109）の講読と疑問点の抽出  授業：児童期 II：現実を超えた思考のはじまり  復習：形式的操作期の特徴、最近接発達領域について整理する</p> <p>【第 9 回】  予習：教科書の該当箇所（p.110-129）の講読と疑問点の抽出  授業：児童期 III：社会性の発達  復習：児童期における自己概念の発達、道徳性と向社会性の発達について整理する</p> <p>【第 10 回】  予習：教科書の該当箇所（p.130-138）を講読し、疑問点を抽出する  授業：青年期 I：自分らしさへの気づき  復習：第二性徴、アイデンティティについて整理する</p> <p>【第 11 回】  予習：教科書の該当箇所（p.138-150）を講読し、疑問点を抽出する  授業：青年期 II：アイデンティティの確立へ向かって  復習：アイデンティティ・ステータスについて整理する</p> <p>【第 12 回】  予習：教科書の該当箇所（p.151-161）を講読し、疑問点を抽出する  授業：青年期 III：青年期の人間関係  復習：親子関係のモデル、友人関係の発達について整理する</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：教科書の該当箇所（p.161-168）を講読し、疑問点を抽出する 授業：青年期Ⅳ：青年期と問題行動 復習：青年期の問題行動と、その発達上の意義について整理する 【第14回】 予習：教科書の該当箇所（p.169-192）を講読し、疑問点を抽出する 授業：成人期：人生の成熟とライフイベント 復習：成人期に起こる出来事と、心の変化について整理する 【第15回】 予習：教科書の該当箇所（p.214-233）を講読し、疑問点を抽出する 授業：文化と発達：発達と文化の多様性 復習：I R E 構造、実践の中での学習について整理する								
授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書に目を通しておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題に対する講評や補足は、翌週以降の授業内で行う。							
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界とかわりあいながら人はいかに育つか』[第2版]（ミネルヴァ書房） 初版と第2版とではページ数等の細かな部分で内容が異なるため、購入の際は注意してもらいたい。							
参考書	授業の進行に合わせて参考資料を紹介する。							
評価の基準と方法	小テスト 20%、試験 40%、課題提出 40%。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目								
その他	教科書を用いた予習や復習が重要となるため、忘れずに購入してもらいたい。 課題提出等に GWE（Google Workspace for Education）を利用する。前期の授業開始前には、Classroom のクラスコードが KOMAJO ポータルのクラスプロフィールの授業資料として公開されるので、確認のうえ登録しておくこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Developmental Psychology II	授業区分	講義
科目責任者	松永 博子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松永 博子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本講義では、生涯発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理機能や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得するとともに、高齢者の社会的援助に対する心理社会的な視点を持つことを狙いとする。具体的には、高齢者特有の身体的な問題は、心理的な側面への影響が大きいため、加齢に伴う身体機能の変化や疾病が心理機能にもたらす影響について学ぶ(認知症等)。また、高齢者に至る経緯について自分自身もまたなりうるということを自覚し、主体的に自身の人生に取り組むための素養を養う。		
到達目標	本講義の目標は、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、高齢期の心理的特徴のみならず身体的・社会的側面を含めて統合的に捉えるための知識を身につけることである。高齢期には、加齢による心身機能の変化に加え、障害による影響などによってその状態は異なり、個別的な課題が生じやすい。それぞれの高齢者に合わせた対応や支援を考えることが望ましい。障害への支援という点のみならず、生涯発達の段階で如何に予防していくか、についても取り組む。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習(予習・復習)			
<p>【第1回】ガイダンス  予習：高齢者心理学について、学びたいこと・知りたいことを整理する  授業：高齢者および高齢者に関する社会的状況の基礎知識、平均寿命、健康寿命  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第2回】エイジズム  予習：前回の授業内で指示する  授業：高齢者に対するイメージ、個別ワーク(尺度)  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第3回】発達と老化(1)  予習：前回の授業内で指示する  授業：発達と発達課題、老化の概念、加齢のメカニズム、サクセフル・エイジング  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第4回】発達と老化(2)  予習：前回の授業内で指示する  授業：生涯発達・加齢理論(離脱理論、活動理論、SOC、SST)、高齢者の多様性  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第5回】パーソナリティと適応  予習：前回の授業内で指示する  授業：高齢期のパーソナリティ、情動・感情(幸福感)、心理的適応  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第6回】心理機能の変化(1)  予習：前回の授業内で指示する  授業：心理的ウェルビーイング、エイジングパラドクス、感覚機能の変化とその影響  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第7回】心理機能の変化(2)  予習：前回の授業内で指示する  授業：認知情報処理(注意、記憶)(ディスカッション)  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第8回】知能の変化  予習：前回の授業内で指示する  授業：知的機能、日常知能、言語能力、知恵(英知)の加齢変化  *グループワークの実施について検討する  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第9回】認知症(1)  予習：前回の授業内で指示する  授業：ドキュメンタリー視聴&amp;ワーク  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第10回】認知症(2)  予習：前回の授業内で指示する  授業：ドキュメンタリー視聴&amp;ワーク  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第11回】認知症(3)  予習：前回の授業内で指示する  授業：認知症について医学的説明・若年性認知症  復習：配布資料を見直す</p> <p>【第12回】老いの自覚</p>			

<p>予習：前回の授業内で指示する          授業：老性自覚、ストレス、うつ、孤独感、自己実現と生きがい          復習：配布資料を見直す  <b>【第13回】終末期と死</b>          予習：前回の授業内で指示する          授業：高齢期の死、死別、悲嘆のプロセス、スピリチュアリティ          復習：配布資料を見直す  <b>【第14回】グループワークもしくは個別ワーク</b>          予習：前回の授業内で指示する          授業：発表の準備（グループワークもしくは個別ワーク）          ＊グループワークに実施について生徒達と協議する          復習：配布資料を見直す  <b>【第15回】グループもしくは個別ワーク発表</b>          予習：発表の準備          授業：発表、授業全体のまとめ（プレゼンテーション）          復習：配布資料を見直す</p>								
授業開始前学習	毎回の授業内容や配布資料について復習し、日常生活で高齢者と接する機会があれば、授業で得た知識をもとに高齢者心理学的な視点を生かして関わることができると望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内のプレゼンには講評を行い、翌週の講義の際に補足説明及び質疑応答を行う。ワークについても授業内で講評を行うと共に、個別の質問に回答する（小レポートはポータルサイト及びメール等にて提出）。							
テキスト・教材	ポータルサイトを通じて、毎回資料を配布する。 授業開始前までに、ダウンロードし、予習・復習に活用してほしい。							
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業参加の積極度および授業内の小レポート（50%）、ワーク（25×2=50%）により評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他	ポータルサイトを通じて、毎回の授業で参考資料を配布する。予習・復習を兼ねて、次回の授業までにすべての配布資料を読んでおくこと。また、ダウンロードした資料はPC等に本講座のファイルホルダーを設置し、わからなくならないよう格納しておくこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チームの研究者として高齢者の就労支援に関する研究を行っています。サクセスフル・エイジングのテーマの際や認知症について、自殺対策についてなどは、実際に行っている研究について皆さんに情報提供したいと考えています。							

科目名称	障害者・障害児心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology for Adults & Children with Disabilities	授業区分	講義
科目責任者	河合 美千代	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 美千代	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	身体障害、知的障害及び精神障害などの概要を理解し、障害者・障害児の心理社会的課題から必要な支援、支援の実態などについて概説する。また、福祉現場あるいは身近な事案などを用いた課題等に取り組むことで理解を深める。 ※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。		
到達目標	障害の特性などを理解し、適切な支援の実施、必要な支援につなげることができるようになるために、障害者・障害児を取り巻く心理社会的課題や社会資源の内容や機能を理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：自分の持つ権利について調べる 授業：人間の持つ権利と障害者（グループワーク） 復習：自分の持つ権利と障害者が持つ権利について考える			
【第2回】 予習：障害の概念について調べる 授業：障害の概念（グループワーク） 復習：障害の概念についてまとめる			
【第3回】 予習：身体障害について調べる 授業：身体障害（グループワーク） 復習：身体障害についてまとめる			
【第4回】 予習：精神障害について調べる 授業：精神障害（グループワーク） 復習：精神障害についてまとめる			
【第5回】 予習：知的障害について調べる 授業：知的障害（グループワーク） 復習：知的障害についてまとめる			
【第6回】 予習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）について調べる 授業：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）（グループワーク） 復習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）についてまとめる			
【第7回】 予習：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）について調べる 授業：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）（グループワーク） 復習：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）についてまとめる			
【第8回】 予習：自分のコミュニケーションの特徴をまとめる 授業：社会的コミュニケーション障害（グループワーク） 復習：社会的コミュニケーション障害についてまとめる			
【第9回】 予習：自分の得意な家事と苦手な家事についてまとめる 授業：ためこみ症の人への理解と支援 復習：生物・心理・社会モデルについてまとめる			
【第10回】 予習：障害者虐待について調べる 授業：障害者虐待（グループワーク） 復習：障害者虐待についてまとめる			
【第11回】 予習：自分が何かを決めるときのプロセスを一つ書く 授業：意思決定支援（グループワーク） 復習：意思決定の支援をするときの注意点についてまとめる			
【第12回】 予習：家族の機能について調べる 授業：家族支援（グループワーク） 復習：家族にとっての危機の意義についてまとめる			
【第13回】			

予習：成年後見制度について調べる 授業：成年後見制度の概要と課題 復習：成年後見制度についてまとめる <b>【第 14 回】</b> 予習：身近な法律・制度について調べる 授業：障害者に関わる法律、制度（グループワーク） 復習：障害者にかかわる法律・制度についてまとめる <b>【第 15 回】</b> 予習：障害を持った場合に受けれるサービス、機関と専門職などについて調べる 授業：障害者福祉サービスと関わる機関や専門職（グループワーク） 復習：障害者に関わるサービス、機関と専門職の役割についてまとめる								
授業開始前学習	各回のテーマに関して、新聞やテレビ、書籍などから情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出する 3 回のレポート（A4 1 枚以内）については、2 週間後をめぐりに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	小澤温編『よくわかる障害者福祉 第 7 版』（ミネルヴァ書房）							
参考書								
評価の基準と方法	小テストまたはミニワーク（40%）、レポート（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○	○			
関連科目	特になし							
その他	特になし							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	心理的アセスメント I		
科目分類	130-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Assessment I	授業区分	講義
科目責任者	片岡 優介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	片岡 優介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理的アセスメント I では、心理検査の中でも質問紙法を中心に取り上げる。私たちは様々な質問紙法によって自分自身の性格、考え方、行動傾向などを理解することができる。質問紙によって把握された結果によって、集団の中での自分の位置を把握することができる。繰り返し質問紙に回答することで、過去の自分と比較することもできる。本授業では、実際に質問紙に回答する機会も設ける。信頼性や妥当性といった用語だけでなく、測定している概念についても説明を行うことで、質問紙に答えることによって得た結果をより深く理解できるようにする。		
到達目標	臨床心理アセスメントに関する理解を深め、心理検査の目的や意義、実施方法を学ぶ。実際に心理検査を体験し、その有用性と限界について実践的に理解し、心理検査の意義と役割に関する理解を深めることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習 臨床心理アセスメントについて調べる  授業 臨床心理アセスメントと心理検査  復習 第 1 回配布資料の見直し</p> <p>【第 2 回】  予習 共感について調べる  授業 共感に関する質問紙の体験と説明  復習 第 2 回配布資料の見直し</p> <p>【第 3 回】  予習 共感について調べる  授業 共感を理解する  復習 第 3 回配布資料の見直し</p> <p>【第 4 回】  予習 利他行動について調べる  授業 利他行動に関する質問紙の体験と説明  復習 第 4 回配布資料の見直し</p> <p>【第 5 回】  予習 利他行動について調べる  授業 利他行動を理解する  復習 第 5 回の配布資料の見直し</p> <p>【第 6 回】  予習 動機づけについて調べる  授業 動機づけに関する質問紙の体験と説明  復習 第 6 回配布資料の見直し</p> <p>【第 7 回】  予習 動機づけについて調べる  授業 動機づけを理解する  復習 第 7 回配布資料の見直し</p> <p>【第 8 回】  予習 1 人であることについて調べる  授業 1 人であることに関する質問紙の体験と説明  復習 第 8 回配布資料の見直し</p> <p>【第 9 回】  予習 1 人であることについて調べる  授業 1 人であることを理解する  復習 第 9 回配布資料の見直し</p> <p>【第 10 回】  予習 不安について調べる  授業 不安に関する質問紙の体験と説明  復習 第 10 回配布資料の見直し</p> <p>【第 11 回】  予習 不安について調べる  授業 不安を理解する  復習 第 11 回配布資料の見直し</p> <p>【第 12 回】  予習 強迫症について調べる  授業 強迫症に関する質問紙の体験と説明  復習 第 12 回配布資料の見直し</p>			

<p>【第13回】  予習 強迫症について調べる  授業 強迫症を理解する  復習 第13回配布資料の見直し</p> <p>【第14回】  予習 発達障害について調べる  授業 発達障害に関する質問紙の体験と説明  復習 第14回配布資料の見直し</p> <p>【第15回】  予習 発達障害について調べる  授業 発達障害を理解する  復習 第15回配布資料の見直し</p>								
授業開始前学習	臨床心理アセスメント、心理検査（特に質問紙法）の概要について事前に学習しておく、授業を理解しやすくなる。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業後のリアクションペーパー等で寄せられた感想や疑問に対しては、適宜授業の中でコメントや回答を行う。							
テキスト・教材	スライドと配布資料							
参考書								
評価の基準と方法	所定の出席数を満たし、かつ、一定回数の質問紙の回答の体験をした者について期末レポート課題（100点）にて総合的に評価をする。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	心理的アセスメントⅡ		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Assessment II	授業区分	講義
科目責任者	笠原 千秋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	笠原 千秋	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>臨床心理アセスメントとは人の心理を観察、面接、そして心理検査などの方法を用いて理解し、臨床心理支援に活かすものである。</p> <p>この授業では心理検査の中からは特に投影法を取り上げる。</p> <p>基礎的な理論、留意点、検査の特徴や意義、実施方法などを学習し、その上で授業内で実習を行い検査を実際に体験する。</p> <p>臨床現場での検査の活用例を学習するため事例の紹介を行う。</p>		
到達目標	<p>①臨床心理アセスメントの基礎知識や留意点、特に投影法の目的や意義、実施方法を学ぶ。</p> <p>②心理検査を実施し所見レポートを作成することで心理アセスメントの実際を体験的に理解する。</p> <p>③投影法の有用性と限界を考察する。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：臨床心理アセスメントについて調べる  授業：オリエンテーション・臨床心理アセスメントとは  復習：第1回配布資料の見直し</p> <p>【第2回】  予習：観察法の概要について調べる  授業：観察法の概要  復習：第2回配布資料の見直し</p> <p>【第3回】  予習：面接法の概要について調べる  授業：面接法の概要  復習：第3回配布資料の見直し</p> <p>【第4回】  予習：心理検査・投影法について調べる  授業：心理検査・投影法の概要  復習：第4回配布資料の見直し</p> <p>【第5回】  予習：TAT・ロールシャハテストについて調べる  授業：TAT・ロールシャハテストの概要  復習：第5回配布資料の見直し</p> <p>【第6回】  予習：検査レポート作成とフィードバックについて調べる  授業：検査レポート作成とフィードバックの概要  復習：第6回配布資料の見直し</p> <p>【第7回】  予習：描画法について調べる  授業：描画法（1）バウムテスト・風景構成法・雨中人物画の概要  復習：第7回配布資料の見直し</p> <p>【第8回】  予習：雨中人物画について調べる  授業：描画法（2）雨中人物画の実施（実習）  復習：第8回配布資料の見直し</p> <p>【第9回】  予習：雨中人物画について調べる  授業：描画法（3）雨中人物画の解釈  復習：雨中人物画の解釈をまとめる</p> <p>【第10回】</p>			

<p>予習：SCTについて調べる  授業：SCT（1）SCTの実施（実習）  復習：第10回配布資料の見直し</p> <p>【第11回】  予習：SCTについて調べる  授業：SCT（2）SCTの解釈  復習：SCTの解釈をまとめる</p> <p>【第12回】  予習：P-Fスタディについて調べる  授業：P-Fスタディ（1）P-Fスタディの実施（実習）  復習：第12回配布資料の見直し</p> <p>【第13回】  予習：P-Fスタディについて調べる  授業：P-Fスタディ（2）P-Fスタディのスコアリング  復習：P-Fスタディのスコアリングをまとめる</p> <p>【第14回】  予習：P-Fスタディについて調べる  授業：P-Fスタディ（3）P-Fスタディの解釈  復習：P-Fスタディの解釈をまとめる</p> <p>【第15回】  予習：実施した検査の振り返り  授業：実施した検査の振り返りと総括  復習：実施した検査をまとめる</p>								
授業開始前学習	心理アセスメントⅠの復習、心理検査（特に投影法検査）の概要について事前に学習しておくことと授業が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後のリアクションペーパーの感想や疑問に対して授業内でコメントや回答を行う。							
テキスト・教材	スライドと配布資料							
参考書	津川律子・遠藤裕乃（編）（2019）． 心理的アセスメント 公認心理師の基礎と実践 14 遠見書房							
評価の基準と方法	リアクションペーパーの提出（40％）と期末レポート課題（60％）にて総合的に評価する。 授業内容に検査の実習を含むため出席を基本とする。 また心理検査の被験者になり自分の心理状態を把握する内容を含むため、強い不安のない者の履修を勧める。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他	授業の進捗状況によって内容、順番は変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	臨床心理アセスメントの実務経験あり。適宜事例など紹介する							

科目名称	心理学的支援法 I		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods of Psychological Support I	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「人が人を助ける・支える」とはどのようなことでしょうか。心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学習します。I では、心理学的支援やケースワークの歴史、定義、原則、過程や良好なコミュニケーション方法について押さえてから、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを学びます。それぞれに短い事例を回答することを通して、アプローチの理解を深めていきます。援助的コミュニケーションについても触れます。		
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、カウンセリングや援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とします。I では、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを習得し、問題を抱える人々の解決にどのように適用できるのか、事例への発表やディスカッションを通して、主体的に考察できるようにします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】  予習：授業シラバスの確認  授業：オリエンテーション  復習：授業内容、授業の進め方の確認</p> <p>【第 2 回】  予習：資料 1 の講読—人が人を支えることについて考える  授業：心理学的支援とは何か：歴史、定義、構造、原則  復習：心理学的支援・ケースワークの歴史、定義、構造、原則のキーワードの確認</p> <p>【第 3 回】  予習：資料 1 の講読—心理学的支援について考える  授業：心理学的支援とは何か：過程、良好なコミュニケーション方法  復習：心理学的支援・ケースワークの過程、良好なコミュニケーション方法の確認</p> <p>【第 4 回】  予習：資料 2 講読—受容と共感について調べてみよう  授業：クライアント中心アプローチ  復習：クライアント中心療法のキーワードの確認と事例 2 への回答</p> <p>【第 5 回】  予習：資料 3 の講読—エコマップについて調べてみよう  授業：事例 2 の発表・ディスカッション、エコロジカルアプローチ  復習：ライフモデルのキーワードの確認と事例 3 への回答</p> <p>【第 6 回】  予習：資料 4 の講読—オペラント条件づけについて調べてみよう  授業：事例 3 の発表・ディスカッション、行動アプローチ  復習：応用行動分析のキーワードの確認と事例 4 への回答</p> <p>【第 7 回】  予習：資料 5 の講読—エリスの ABC 理論について調べてみよう  授業：事例 4 の発表・ディスカッション、認知アプローチ  復習：認知療法のキーワードの確認と事例 5 への回答</p> <p>【第 8 回】  予習：資料 6 の講読—リンデマンの急性悲嘆反応について調べてみよう  授業：事例 5 の発表・ディスカッション、危機介入アプローチ  復習：危機介入理論のキーワードの確認と事例 6 への回答</p> <p>【第 9 回】  予習：資料 7 の講読—パウルマンについて調べてみよう  授業：事例 6 の発表・ディスカッション、問題解決アプローチ  復習：問題解決アプローチのキーワードの確認と事例 7 への回答</p> <p>【第 10 回】  予習：資料 8 の講読—課題中心アプローチについて調べてみよう  授業：事例 7 の発表・ディスカッション、課題中心アプローチ  復習：課題中心アプローチのキーワードの確認と事例 8 への回答</p> <p>【第 11 回】  予習：資料 9 の講読—家族療法について調べてみよう  授業：事例 8 の発表・ディスカッション、システム（家族療法）アプローチ  復習：構造派家族療法のキーワードの確認と事例 9 への回答</p> <p>【第 12 回】  予習：資料 10 の講読—セツルメント運動について調べてみよう  授業：事例 9 の発表・ディスカッション、エンパワメントアプローチ</p>			

<p>復習：エンパワメントアプローチのキーワードの確認と事例 10 への回答  【第 13 回】  予習：資料 11 の印刷と講読—社会構築主義について調べてみよう  授業：事例 10 の発表・ディスカッション、ナラティブアプローチ  復習：ナラティブアプローチのキーワードの確認と事例 11 への回答  【第 14 回】  予習：資料 12 の講読—援助的コミュニケーションについて調べてみよう  授業：事例 11 の発表・ディスカッション、援助的コミュニケーション  復習：援助的コミュニケーションについてまとめる  【第 15 回】  予習：これまでの資料の講読  授業：心理学的支援のこれから  復習：心理学的支援の課題についてまとめる  ※資料番号と事例番号を統一させるため、事例 1 はなく、事例 2～11 です。</p>								
授業開始前学習	心理学的支援や対人援助に関する本を読んでおくことで授業が理解しやすい。							
授業内課題の フィードバックの方法	復習として事例を回答し、翌週の授業で発表、ディスカッションしてもらいますが、その回答内容に対してコメントします。							
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書								
評価の基準と方法	期末レポート（80%）、事例課題（全10回）（20%）							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			△	
関連科目								
その他	授業資料は事前に配付しますので、予習に活用してください。授業の進捗状況などにより、部分的に内容を変更することがあります。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。							

科目名称	心理学的支援法Ⅱ		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Methods of Psychological Support Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「人が人を助ける・支える」とはどのようなことでしょうか。心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学びます。Ⅱでは、Ⅰで学んだエコロジカルアプローチ、行動アプローチ、ナラティブアプローチの理解を深めるため、長い事例を用いて、グループワークによるディスカッションや発表により参加型の授業を図り、心理学的支援を実践的に学んでいきます。職業倫理やコミュニティ心理学と心の健康教育についても触れます。		
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動やカウンセリングに活用できる能力と態度を育てることを目標とします。Ⅱでは、Ⅰで学んだアプローチの理解をさらに深めるため、長い事例に取り組み、グループワークによるディスカッションや発表を通して、心理学的支援について実践的、主体的に考えられるようにします。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：授業シラバスの確認  授業：オリエンテーション  復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】  予習：公認心理師協会の倫理綱領について調べてみよう  授業：職業倫理とケースワークの原則  復習：倫理綱領とバ이스テックの7原則の内容の確認</p> <p>【第3回】  予習：エコロジカルアプローチについて確認する  授業：エコロジカルアプローチによる支援と事例1（不登校）の紹介  復習：ライフモデルのキーワードの確認</p> <p>【第4回】  予習：事例1-1の質問に回答  授業：事例1：1.アセスメントを行う（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第5回】  予習：事例1-2、3の質問に回答  授業：事例1：2.人へ介入する、3.環境へ介入する（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第6回】  予習：事例1-4、5の質問に回答  授業：事例1：4.人と環境の接点へ介入する、5.終結し、評価する（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第7回】  予習：行動アプローチについて確認する  授業：行動アプローチによる支援と事例2（多動性障害）の紹介  復習：応用行動分析のキーワードの確認</p> <p>【第8回】  予習：事例2-1の質問に回答  授業：事例2：1.問題の捉え方を調べる（発表とディスカッション）  復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第9回】  予習：事例2-2、3の質問に回答  授業：事例2：2.応用行動分析の理解、3.目標設定（発表とディスカッション）  復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第10回】  予習：事例2-4、5の質問に回答  授業：事例2：4.目標の実行、5.モニタリング・終結（発表とディスカッション）  復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第11回】  予習：ナラティブアプローチについて確認する  授業：ナラティブアプローチによる支援と事例3（児童虐待のトラウマ）の紹介  復習：ナラティブアプローチのキーワードの確認</p> <p>【第12回】  予習：事例3-1、2の質問に回答  授業：事例3：1.ドミナントストーリーの傾聴、2.問題の外在化（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p>			

<p>【第13回】  予習：事例3-3の質問に回答  授業：事例3：3.ユニークな結果の発見（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第14回】  予習：事例3-4、5の質問に回答  授業：事例3：4.5.オルタナティブストーリーの作成と強化（発表とディスカッション）  復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる</p> <p>【第15回】  予習：コミュニティ心理学や心の健康について調べてみよう  授業：コミュニティ心理学と心の健康教育  復習：コミュニティ心理学と心の健康教育のキーワードの確認</p>								
授業開始前学習	心理学的支援法や対人援助に関する本を読んでおく授業が理解しやすい。心理学的支援法Ⅰの履修者は配付資料を復習してください。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業後半では各自が具体的な事例に取り組み、回答を板書してもらいますが、回答内容についてコメントします。							
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書								
評価の基準と方法	レポート（80%）、事例発表・ディスカッション（20%）							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かす自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			△	
関連科目								
その他	講義資料は事前に配付しますので、予習で購読（質問には回答）してください。受講者数によって事例の発表とディスカッションの方法を検討します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。							

科目名称	健康・医療心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Health and Medical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	飯田 敏晴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-717
授業概要	本講義は、次の4点について概説します。 1) ストレスと心身の疾病との関係について説明します。 2) 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について論じます。 3) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体例を紹介しつつ、その理解を促します。 4) 災害時等に必要な心理に関する支援について論じます。		
到達目標	1) ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。 2) 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 3) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 4) 災害時等に必要な心理に関する支援を説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスで授業のスケジュールを確認する 授業：授業の紹介、ストレスと心身の疾病との関係（生活習慣と心の健康） 復習：配布資料に基づいて、健康・医療心理学の概要をまとめる</p> <p>【第2回】 予習：ストレスの心理学について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（ストレス症状） 復習：ストレス症状の特徴や、その対応をまとめる</p> <p>【第3回】 予習：心身症について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（心身症） 復習：心身症についての日本の特徴についてまとめる</p> <p>【第4回】 予習：キャプランの「予防」について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（予防の考え方） 復習：予防の倫理的問題について、授業資料を振り返りながらまとめる</p> <p>【第5回】 予習：精神疾患について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（精神疾患） 復習：精神疾患について、その特徴をまとめる</p> <p>【第6回】 予習：がんについて調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（がん） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する</p> <p>【第7回】 予習：HIV/AIDSを検索語として、調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（後天性免疫不全症候群、難病） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する</p> <p>【第8回】 予習：チーム医療について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（チーム医療と多職種連携、リエゾン精神医学） 復習：チーム医療における心理職の職能を理解する</p> <p>【第9回】 予習：生活の質や、ICF（国際生活機能分類）について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（生活の質） 復習：授業内容を自分なりにまとめる</p> <p>【第10回】 予習：保健活動における心理的支援（発達相談） 授業：人間の「発達」と「障害」を検索語として調べる 復習：発達相談の特徴についてまとめる</p> <p>【第11回】 予習：日本における自殺対策や、産業精神保健について調べる 授業：保健活動における心理的支援（うつ、自殺対策、職場復帰支援） 復習：自殺対策について自分なりに、その特徴や支援をまとめる</p> <p>【第12回】</p>			

<p>予習：ギャンブル依存、アルコール依存などについて調べる  授業：保健活動における心理的支援（依存症）  復習：依存症に関わる地域での心理的支援について、まとめる  【第13回】  予習：高齢者、老老介護や、その関連政策について調べる  授業：保健活動における心理的支援（認知症高齢者）  復習：認知症に関わる地域での心理的支援について、まとめる  【第14回】  予習：大規模災害の状況および、その後の状況を調べる  授業：災害時等の心理的支援（心理的応急処置）、災害時等の心理的支援（心のケアチーム、災害派遣精神医療チーム、支援者のケア）  復習：心理的応急処置についてその特徴をまとめる  【第15回】  予習：これまでの授業の復習  授業：授業内試験と解説  復習：試験結果と解説を踏まえて、自身が得点が取れなかった箇所の見直しをすること</p>								
授業開始前学習	人間の行動変容に関する基本的知識（学習心理学など）や身体についての基本的知識を学習しておくと思われ。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に作成する Reaction については次回授業までに、フィードバックする。原則として、クラウドを活用する予定。							
テキスト・教材	公認心理師ベーシック講座 健康・医療心理学（講談社）							
参考書	『心の健康教育（金子書房）』、『看護学テキスト NICE 病態・治療論 12 精神疾患』（南江堂）、『健康・医療心理学』（ナカニシヤ出版）、『健康心理学概論』（実務教育出版）、『健康心理学・入門』（有斐閣）、山蔦 圭輔（著）『ベーシック健康心理学—臨床への招待』（ナカニシヤ出版）、『健康・医療心理学』（医歯薬出版）「ほか							
評価の基準と方法	毎回の授業後に提出する Reaction（15%）、学期はじめに提示され学期末までに提出する Brief Report(25%)、試験（60%）のそれぞれの成績による。それらの成績をもとに 100 点満点換算で 60 点以上の者に単位を認定する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	心理学の基礎 臨床心理学概論 感情・人格心理学 社会・集団心理学 教育・学校心理学							
その他	第1回目の授業資料をよく確認してください。欠席した場合、classroomにある資料を確認の上で、Reactionを次の授業までに提出してください。Reactionは、当該回の次の講義日までに提出してください。授業内容は、履修生の要望や進度に応じて、修正することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	総合病院における実務経験あり。健康・医療心理学の理論や研究成果に、実践を交えながら、講義する。							

科目名称	福祉心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychology for Social Welfare	授業区分	講義
科目責任者	河合 美千代	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 美千代	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>私たちが生活している社会で福祉が必要とされていることの意味について考え、虐待などの事象を生む社会背景や人々の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。</p> <p>※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。</p>		
到達目標	<p>福祉現場や身近な実際の事案などを用いて、福祉について自分のこととして具体的に考えられるようになる。また、人を支援する仕事に就いた時に、適切な支援ができる基礎となる知識を身に着ける。</p>		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：福祉の領域について調べる  授業：福祉領域の概観（私たちの生活に福祉が必要とされる社会的背景）（グループワーク）  復習：福祉が身近に感じられる事柄についてまとめる</p> <p>【第2回】  予習：自分の生活の中でどのような権利があるかを調べる  授業：社会福祉の基本的理念（基本的人権、権利擁護、ノーマライゼーションなど）（グループワーク）  復習：社会福祉の基本的理念についてまとめる</p> <p>【第3回】  予習：子育て環境をめぐる現状について調べる  授業：子どもの福祉（子育て環境をめぐる現状と支援）（グループワーク）  復習：子育て支援についてまとめる</p> <p>【第4回】  予習：児童相談所の援助業務について調べる  授業：子どもの福祉（児童虐待の背景要因と支援）（グループワーク）  復習：児童虐待についてまとめる</p> <p>【第5回】  予習：障害者の範囲について調べる  授業：障害者の福祉（障害者の生活と支援・合理的配慮）（グループワーク）  復習：障害者の福祉についてまとめる</p> <p>【第6回】  予習：高齢者の定義について調べる  授業：高齢者の福祉（高齢者の生活と支援）（グループワーク）  復習：高齢者の福祉についてまとめる</p> <p>【第7回】  予習：高齢者虐待の背景について調べる  授業：高齢者の福祉（高齢者虐待の背景要因と支援）（グループワーク）  復習：高齢者虐待についてまとめる</p> <p>【第8回】  予習：DVとは何かについて調べる  授業：家庭の福祉（DVへの理解と支援）（グループワーク）  復習：DV 被害者への支援についてまとめる</p> <p>【第9回】  予習：ひきこもりとはどういう状態なのかを調べる  授業：ひきこもりの人への支援（グループワーク）  復習：ひきこもりの人への支援についてまとめる</p> <p>【第10回】  予習：生活保護制度について調べる  授業：生活困窮者に対する支援（グループワーク）  復習：生活困窮者に対する支援についてまとめる</p> <p>【第11回】  予習：自分が人に相談する時に、相手に求めるものをまとめる  授業：相談援助に必要な技術（グループワーク）  復習：相談援助に必要な技術についてまとめる</p> <p>【第12回】  予習：高齢者を介護する家族の心情について調べる</p>			

授業：家族・職員への支援(グループワーク) 復習：家族・職員への支援についてまとめる 【第 13 回】 予習：自分が何かを決定する時に妨げられた時の思いを書く 授業：相談援助における意思決定への支援 (グループワーク) 復習：意思決定支援についてまとめる 【第 14 回】 予習：事例を検討する目的を調べる 授業：相談援助事例の検討 (事例) (グループワーク) 復習：相談援助事例の検討についてまとめる 【第 15 回】 予習：なぜ連携が必要なのかについて調べる 授業：専門職の役割と連携 (グループワーク) 復習：専門職の役割と連携についてまとめる								
授業開始前学習	各回のテーマに関して情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	提出する 3 回のレポート (A4 1 枚以内) については、2 週間後をめぐりに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	川畑直人・大島剛・郷式徹監修/川畑隆・笹川宏樹・宮井研治編著『公認心理師の基本を学ぶテキスト 17 福祉心理学 福祉分野での心理職の役割』(ミネルヴァ書房)							
参考書	中島健一編『福祉心理学』(遠見書房) 菅野恵『福祉心理学を学ぶ 児童虐待防止と心の支援』(勁草書房) 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編集『福祉心理学の世界：人の成長を辿って』(ナカニシヤ出版)							
評価の基準と方法	小テストまたはミニワーク 40 パーセント、レポート 60% で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	特にありません							
その他	特にありません							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	教育・学校心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Educational and School Psychology	授業区分	講義
科目責任者	太齋 慧	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太齋 慧	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	教育・学校心理学は、心理学の知見を学校教育の現場に活かし、心理教育的援助サービスの充実を図ろうとする学問です。 本講義では臨床心理学、コミュニティ心理学等の知見を通して、スクールカウンセラーの役割や基本的な考え方を理解し、児童・生徒やその関係者、コミュニティへの支援について学ぶことを目的とします。		
到達目標	教育・学校心理学、スクールカウンセリングについての重要な概念や考え方を理解し、説明できるようになる。また実際に自分がスクールカウンセラーになったときに、どのように児童・生徒やその関係者、コミュニティを支援していかを考えられるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習 シラバスを読み、質問や確認事項があればまとめておく  授業 ガイダンス 授業の概要、進め方について  復習 【第1回】で扱った用語や概念についてまとめておく</p> <p>【第2回】  予習 【第2回】の配布資料を読んでおく  授業 教育・学校心理学とは  復習 教育・学校心理学とは何かについてまとめておく</p> <p>【第3回】  予習 【第3回】の配布資料を読んでおく  授業 学校における心理支援とは  復習 学校における心理支援についてまとめておく</p> <p>【第4回】  予習 【第4回】の配布資料を読んでおく  授業 システム、コミュニティを捉える視点  復習 システム、コミュニティを捉える視点についてまとめておく</p> <p>【第5回】  予習 【第5回】の配布資料を読んでおく  授業 個人を捉える視点 発達心理学を中心に  復習 個人を捉える視点についてまとめておく</p> <p>【第6回】  予習 【第6回】の配布資料を読んでおく  授業 支援のためのコミュニケーション（グループワーク）  復習 学んだ考え方や体験について振り返りまとめておく</p> <p>【第7回】  予習 【第7回】の配布資料を読んでおく  授業 アセスメントとは  復習 アセスメントについてまとめておく</p> <p>【第8回】  予習 【第8回】の配布資料を読んでおく  授業 発達障害の理解と支援  復習 発達障害の理解と支援についてまとめておく</p> <p>【第9回】  予習 【第9回】の配布資料を読んでおく  授業 不登校の理解と支援  復習 不登校の理解と支援についてまとめておく</p> <p>【第10回】  予習 【第10回】の配布資料を読んでおく  授業 いじめの理解と支援  復習 いじめの理解と支援についてまとめておく</p>			

<p>【第 11 回】  予習 【第 11 回】の配布資料を読んでおく  授業 非行の理解と支援  復習 非行の理解と支援についてまとめておく</p> <p>【第 12 回】  予習 【第 12 回】の配布資料を読んでおく  授業 学習支援 「認知カウンセリング」の視点から  復習 学習支援についてまとめておく</p> <p>【第 13 回】  予習 【第 13 回】の配布資料を読んでおく  授業 コミュニティとしての学校の支援  復習 コミュニティとしての学校の支援についてまとめておく</p> <p>【第 14 回】  予習 【第 14 回】の配布資料を読んでおく  授業 学校の中のマイノリティ 性的マイノリティ (LGBTQ+) を例に  復習 学校の中のマイノリティについてまとめておく</p> <p>【第 15 回】  予習 【第 15 回】の配布資料を読んでおく  授業 学校と「居場所」  復習 学校と「居場所」についてまとめておく</p>								
授業開始前学習	心理学, 臨床心理学, 発達心理学の基本的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。入門書や概論書を読んでおくことをお勧めします。							
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー等の内容については, 次回の講義内でフィードバックします。							
テキスト・教材	適宜, 資料を配布します。							
参考書								
評価の基準と方法	・定期試験 70% ・小テストまたは小レポート 30% ※単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と, 人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と, 社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と, 心理学の知見を活かす自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と, 実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他	受講者の人数, 興味関心により授業の内容, 順番については変更することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	心理支援職としての実務経験を活かし, 現場における問題の理解と支援について講義します。							

科目名称	司法・犯罪心理学		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Forensic and Criminal Psychology	授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 金曜日 09:30～10:30	研究室	10-719
授業概要	<p>非行や犯罪の動向には、社会情勢の変化や社会の課題が反映されていることが多い。また、非行や犯罪の発生とそこからの立ち直りについては、発達やパーソナリティ、家族関係、学校や仕事、地域社会など様々な要因が影響を及ぼすものであり、司法・犯罪領域の基本的事項や理論等を多角的な視点から知っておくことには意義がある。本講では、①司法・犯罪領域の制度や理論、②主に心理学的見地からのアセスメントと支援の方法、③この領域における専門機関やそこで活躍する専門職の実践について、事例等を適宜紹介しながら、幅広く講義する。また、司法領域に持ち込まれる家庭問題を解決するために、心理学的な視点がどのように活かされているかについても家事事件の概要を通して解説する。授業では、ペアワークや小グループでのディスカッションを行い、学生に発表を求めることもある。</p>		
到達目標	<p>司法・犯罪領域に関わる社会の出来事に関心を抱き、自分なりの意見を持つようになる。 司法・犯罪領域における制度や理論、専門機関等の概要について説明できる。 非行や犯罪を多角的に捉える必要性を理解し、アセスメントや支援における心理学の知見の活用を実際を学ぶ。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】 予習 最近の非行、犯罪に関する報道や記事を調べる。 授業 イントロダクション（授業の進め方、司法・犯罪心理学の領域） 復習 配布資料を見返す。</p> <p>【第2回】 予習 犯罪白書や配布資料等を概観する。 授業 非行・犯罪の動向と少年非行の歴史の変遷 復習 課題①。配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第3回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論①（生物－心理－社会モデル、リスクアセスメント等） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第4回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論②（心理学理論を中心に） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第5回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論③（社会学理論を中心に） 復習 非配布資料を見返す。参考文献等を確認する。</p> <p>【第6回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論④（ライフコース理論） 復習 課題②。非行・犯罪理論について理解を深め、整理する。</p> <p>【第7回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 刑事司法手続と情状鑑定 復習 刑事司法手続についてまとめる。</p> <p>【第8回】 予習 少年法を概観する。 授業 少年司法手続と少年法 復習 少年司法手続と刑事司法手続の違いについてまとめる。</p> <p>【第9回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 家庭裁判所の審判と家庭裁判所調査官の調査 復習 課題③。家庭裁判所の審判と科学的調査機能についてまとめる。</p> <p>【第10回】 予習 少年院法や少年鑑別所法を概観する。 授業 少年に対する処遇と支援①（少年鑑別所、少年院） 復習 配布資料を見返す。</p> <p>【第11回】 予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 少年に対する処遇と支援②（児童自立支援施設、児童相談所） 復習 配布資料を見返す。</p>			

<p>【第12回】  予習 更生保護法を概観する。  授業 少年に対する処遇と支援③（保護観察所）  復習 配布資料を見返す。少年保護関係機関等の処遇について理解を深め、まとめる。</p> <p>【第13回】  予習 配布資料や参考図書にあたる。  授業 刑務所の処遇と医療観察制度  復習 課題④。配布資料を見返す。</p> <p>【第14回】  予習 犯罪被害者等支援施策の歴史を調べる。  授業 犯罪被害者の支援  復習 犯罪被害者等の支援について理解し、まとめる。</p> <p>【第15回】  予習 配布資料や参考図書にあたる。  授業 家庭問題の解決に向けた支援（家事事件を通しての理解）  復習 家庭問題を抱えたクライアントへの対応に当たり必要な知識・考え方についてまとめる。</p>								
授業開始前学習	非行や犯罪、少年法に関連するニュースに関心を持ち調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業で指示した課題等については、全体の講評という形でフィードバックする。							
テキスト・教材	テキストは使わない。授業で適宜、資料を配布し、文献を推薦、紹介する。							
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのかー成人犯罪への道をたどらせないためにー』（合同出版）							
評価の基準と方法	所定の出席状況を踏まえ、レポート課題により60%、授業で指示する課題（小レポート、小テスト等）による40%の配分で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	家庭裁判所調査官としての実務経験をもとに、司法・犯罪領域の問題について、多角的な視点から理解する必要性や、特に心理学の知見を活用して理解し支援する方法について講義する。							

科目名称	産業・組織心理学		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Industrial and Organizational Psychology	授業区分	講義
科目責任者	新井 素子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	新井 素子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ほとんどの人は、大学などを卒業した後は生涯にわたり職業に従事して働く生活を送ると思われる。働くということには、キャリア形成や職場でのパフォーマンスの向上、働く人のメンタルヘルスなど様々な問題が関わる。他方、働くということには成長や喜びをもたらす面もある。この授業には「キャリア形成」、「モチベーション」、「ストレスマネジメント」などの職場における問題や組織における人の行動に対する基本的な知識や理解を深める。		
到達目標	産業心理学の基本的知識を習得する。特にキャリア形成、動機づけ理論、および職場のコミュニケーションについて習得すると共に、心理学からみた職場におけるメンタルヘルスの問題と臨床的活動の実際などについての理解を深める。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】 予習：自分が将来、どのようなキャリアを積みたいのかにつき考える。 授業：イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など）、産業・組織心理学に対するイメージをつかむ。 復習：授業の内容で興味のあるテーマにつき、新聞・ニュースなどをチェックする。			
【第2回】 予習：自分がこれまで関わった組織の特徴について考える。 授業：組織の特徴やそれに関する心理学の基礎を理解する。ヒューマン・エラーについて理解する。 復習：心理学の視点から、組織について考察する。			
【第3回】 予習：自分の将来のキャリア形成について考える。 授業：キャリア形成①－青年期におけるキャリア形成について知り、理解を深める。 復習：授業で得られた青年期の課題についての知識を自分の現在の課題に当てはめて考える。			
【第4回】 予習：身近な人（親やきょうだい、先輩など）のキャリアを形成につき、聞いたり調べたりする。 授業：キャリア形成②－スーパーの理論などキャリアにまつわる理論について知り、理解を深める。 復習：学んだ理論を参照しながら、自分の現在・将来のキャリア形成について再考する。			
【第5回】 予習：自分はどのようなときにやる気が出るのか、なぜやる気が出るのかなどについて考える。 授業：ワーク・モチベーション①－マズローの5段階欲求や科学的管理法などについて、基本的な知識を習得する。 復習：マズローのモデルに基づいて、自分が現在どの段階にいるのかなどを考察する。			
【第6回】 予習：どのようにすれば、自分で自分のやる気を引き出すことができるのかについて考える。 授業：ワーク・モチベーション②－期待理論や目標設定理論などについて、基本的な知識を習得する。 復習：自分自身に授業で学んだ知識をあてはめ、目標を達成するためにはどうしたらよいか、その方法を考える。			
【第7回】 予習：周囲の人（友達や家族など）に、どのようにやる気を引き出しているのか、その方法を聞いてみる。 授業：ワーク・モチベーション③－自分のやる気について理解を深める。 復習：これまで習得した知識を元に、自分のモチベーションのあり方について振り返る。			
【第8回】 予習：身の回りで就職活動を体験した人（親やきょうだい、先輩等）に就職活動の様子を聞いてみる。 授業：心理学の視点から、採用活動や面接についての基礎的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ知識などを自分の就職活動にあてはめて考察する。			
【第9回】 予習：職場の人間関係についてのニュースや新聞の中から、気になる記事についてピックアップして読んでおく。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係①－職場の人間関係、集団の発達などについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ人間関係の発達についての知識などを、自分が所属するグループにあてはめて考察する。			
【第10回】 予習：新聞や書籍などから、職場の人間関係を改善した例について調べる。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係②－コンフリクト・マネジメントについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方により、どのようにコンフリクトが解決できるか、その方策を考える。			
【第11回】 予習：リーダーシップがある人の特徴について考える。 授業：リーダーシップについての基本的な知識や考え方を習得する。 復習：授業で得た知識などを踏まえ、リーダーシップがある人の要因を分析する。			
【第12回】 予習：自分がどのような消費活動を行っているか、特に購買行動について考える。 授業：購買行動をめぐる売り手・買い手に関係する心理学的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方を踏まえ、自分の購買行動を振り返る。			
【第13回】			

<p>予習 : 働く人のメンタルヘルスに関わるニュースについて調べる。          授業 : 働く人のメンタルヘルス① - 職場におけるストレスとその対応について基本的な知識を習得する。          復習 : 職場でどのようなストレス対処策が実施されているのかにつき調べる。          【第 14 回】          予習 : 新聞や書籍などから働く人のメンタルヘルスに関わる問題について調べる。          授業 : 働く人のメンタルヘルス② - 様々なストレス理論について理解を深める          復習 : ストレス理論を自分に当てはめて、自分自身のストレス対応を考える。          【第 15 回】          予習 : 自分のストレス解消法について考えてみる。          授業 : 働く人のメンタルヘルス③ - これまでのまとめ(セルフケアの勧め)          復習 : 自分でセルフケアを実践してみる。</p>								
授業開始前学習	①新聞・ニュースで、授業に関連する気になるニュースをチェックしておく。 ②自分自身のアルバイトや今後の就職活動において気になる問題を考えておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内でミニレポートを実施し、翌週または 2 週後に全体の講評と個別の質問などにコメントをするなど、フィードバックを行う。							
テキスト・教材	スライドと配布資料を用いる。その他の参考文献は講義内で随時紹介する。							
参考書	田中堅一郎（編）『産業・組織心理学エッセンシャルズ』（ナカニシヤ出版）							
評価の基準と方法	ミニテスト 100%（レポート含む） ※全講義回数のうち 1 / 3 以上欠席の場合は単位取得不可							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かす自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	消費者心理学							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人体の構造と機能及び疾病		
科目分類	130-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Human Body Structure, Function and Diseases	授業区分	講義
科目責任者	金 智慧	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金 智慧	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心身機能と身体構造、および様々な疾病や障害に関する知識を習得し、医療領域での心理援助がどのように行われるかを、ビデオやワーク、事例を用いながら実践的に理解していく。全人的医療の観点から、精神科・心療内科における事例だけでなく、より広い医療領域において心理支援が必要な事例に対する心理援助の在り方、チーム医療の中での心理職の仕事について学び、医療領域で幅広く活躍する心理職の役割を考察していく。		
到達目標	医療領域における心理職の役割と心理援助の実際について理解を深めることを目標とする。心身機能と構造や、様々な疾病および障害の基本的な知識を習得し、事例に基づいて医療現場で用いられる心理療法を実践的に理解する。それによって、医療現場における心理的な支援を必要とする問題を理解し、心理職の専門性は何かという問いに対する考察を深めることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】  予習：臨床心理学の基礎知識をまとめ、復習する  授業：オリエンテーション、医療領域で働く心理職の仕事  復習：第1回の配布資料の見直し</p> <p>【第2回】  予習：心理アセスメントについて調べる  授業：医療領域における心理援助の流れ  復習：第2回の配布資料の見直し</p> <p>【第3回】  予習：強迫性障害について調べる  授業：強迫性障害の心理援助  復習：第3回の配布資料の見直し</p> <p>【第4回】  予習：心的外傷後ストレス障害について調べる  授業：心的外傷後ストレス障害の心理援助  復習：第4回の配布資料の見直し</p> <p>【第5回】  予習：うつ病について調べる  授業：うつ病の心理援助  復習：第5回の配布資料の見直し</p> <p>【第6回】  予習：統合失調症について調べる  授業：統合失調症の心理援助  復習：第6回の配布資料の見直し</p> <p>【第7回】  予習：摂食障害について調べる  授業：摂食障害の心理援助  復習：第7回の配布資料の見直し、中間レポート</p> <p>【第8回】  予習：発達障害について調べる  授業：発達障害（自閉スペクトラム障害）の心理援助  復習：第8回の配布資料の見直し</p> <p>【第9回】  予習：発達障害について調べる  授業：発達障害（ADHD；注意欠陥多動性障害、SLD；限局性学習障害）の心理援助  復習：第9回の配布資料の見直し</p> <p>【第10回】  予習：SST（社会生活技能訓練）について調べる  授業：SST（社会生活技能訓練）  復習：第10回の配布資料の見直し</p> <p>【第11回】  予習：提示された事例をもとに心理支援を考える  授業：事例から考える心理支援  復習：第11回の配布資料の見直し</p> <p>【第12回】  予習：アンガーマネジメントについて調べる  授業：アンガーマネジメント</p>			

復習：第 12 回の配布資料の見直し 【第 13 回】 予習：チーム医療について調べる 授業：チーム医療 復習：第 13 回の配布資料の見直し 【第 14 回】 予習：多職種連携、他機関との連携について調べる 授業：多職種連携 復習：第 14 回の配布資料の見直し 【第 15 回】 予習：これまでの授業の振り返り 授業：「こころの健康」とは何か、心理職の専門性とは何か 復習：期末レポート								
授業開始前学習	基礎心理学や臨床心理学の基礎知識に関する学習をしておくことで授業が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業の中で実施したワークや講義の内容について、ミニレポートを提出してもらう。感想や疑問に対し、授業の中で回答していく。							
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する（または Classroom での資料データのアップデートを実施）							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度（15 点）、毎回提出するミニレポート（45 点）、最終レポート（40 点）にて総合的に評価する。 ※全講義回数のうち 1 / 3 以上欠席（またはミニレポートの未提出）の場合は単位取得不可							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他	心理援助において専門知識の習得は必要不可欠ですが、習得した専門知識を実践において活かしていくためには、自分で考える力やコミュニケーション能力を育むことが必要になります。本講義では、単なる知識習得にとどまらず、履修生一人ひとりが自分で考えたことや感じたことを大切にしたいうえで、自分の考えや意見を他者と共有することを前提としています。そのためには積極的な姿勢を持って講義に参加することが望ましいでしょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床、精神保健福祉の実務経験あり。各領域における心理援助の経歴をもとに、精神疾患の基礎知識および心理援助、医療領域における実践・課題について講義する。							

科目名称	精神疾患とその治療		
科目分類	130-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychiatric Disorders and Treatments	授業区分	講義
科目責任者	小口 芳世	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小口 芳世	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	精神医学について概説し、精神疾患の診断・治療の総論事項をふまえながら、精神疾患各論について解説する。		
到達目標	精神医学のアウトライン、精神疾患の診断と治療双方ならびに各精神疾患に関する基礎的事項を説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】精神医学総論  予習：精神医学総論について調べる  授業：精神医学総論について  復習：精神医学総論について復習する</p> <p>【第2回】精神疾患の診断と診断基準  予習：精神疾患の診断と診断基準について調べる  授業：精神疾患の診断と診断基準について  復習：精神疾患の診断と診断基準について復習する</p> <p>【第3回】精神疾患の治療  予習：精神疾患の治療について調べる  授業：精神疾患の治療について  復習：精神疾患の治療について包括的に復習する</p> <p>【第4回】神経発達症  予習：神経発達症について調べる  授業：神経発達症について  復習：神経発達症について復習する</p> <p>【第5回】統合失調症  予習：統合失調症について調べる  授業：統合失調症について  復習：統合失調症について復習する</p> <p>【第6回】気分障害  予習：気分障害について調べる  授業：気分障害について  復習：気分障害について復習する</p> <p>【第7回】不安症、強迫症  予習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について調べる  授業：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について  復習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について復習する</p> <p>【第8回】ストレス関連障害、解離症  予習：ストレス関連障害、解離症について調べる  授業：ストレス関連障害、解離症について  復習：ストレス関連障害、解離症について復習する</p> <p>【第9回】食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群  予習：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について調べる  授業：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について  復習：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について復習する</p> <p>【第10回】物質関連障害、嗜癖性障害  予習：物質関連障害、嗜癖性障害について調べる  授業：物質関連障害、嗜癖性障害について  復習：物質関連障害、嗜癖性障害について復習する</p> <p>【第11回】神経認知障害、せん妄  予習：神経認知障害、せん妄について調べる  授業：神経認知障害、せん妄について  復習：神経認知障害、せん妄について復習する</p> <p>【第12回】てんかん、器質性精神障害  予習：てんかん、器質性精神障害について調べる  授業：てんかん、器質性精神障害について  復習：てんかん、器質性精神障害について復習する</p> <p>【第13回】パーソナリティ障害、性関連障害</p>			

予習：パーソナリティ障害、性関連障害について調べる 授業：パーソナリティ障害、性関連障害について 復習：パーソナリティ障害、性関連障害について復習する <b>【第 14 回】緩和医療</b> 予習：緩和医療について調べる 授業：緩和医療について 復習：緩和医療について復習する <b>【第 15 回】医療機関との連携、まとめ</b> 予習：医療機関との連携について調べる 授業：医療機関との連携について 復習：医療機関との連携について復習する								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内課題は原則、設けない（一部、成績には入らない演習として求める場合がある）。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の成績（90%）と授業の参加態度（10%）による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	関係行政論		
科目分類	130-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Legal and Administrative Systems	授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・田中・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理援助を行う際には、関連する「法」や「制度」があることを理解し、その枠組みの中で適切に行う必要がある。この授業では、心理援助に関連する様々な法や制度についての知識や理念を学修する。さらに、心理援助の各領域（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業）ごとに、具体的な事例をもちいて少人数のグループ・ディスカッションを行い、実際のケースや対応についての理解を深める。		
到達目標	心理援助には、多くの関連する法や条例、制度があることを理解し、法律や制度に照らして適切な心理援助のあり方を検討できるようになることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>第1回  予習：教科書第1章講読  授業：法・制度の基本と公認心理師【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第1章の学習チェック</p> <p>第2回  予習：教科書第2章講読  授業：公認心理師の法的立場と多職種連携【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第2章の学習チェック</p> <p>第3回  予習：教科書第3章講読  授業：公認心理師の各分野への展開【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第3章の学習チェック</p> <p>第4回  予習：教科書第4章講読  授業：保健医療分野に関係する法律・制度(1) 医療全般【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第4章の学習チェック</p> <p>第5回  予習：教科書第5章講読  授業：保健医療分野に関係する法律・制度(2) 精神科医療【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第5章の学習チェック</p> <p>第6回  予習：教科書第6章講読  授業：保健医療分野に関係する法律・制度(3) 地域保健・医療【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第6章の学習チェック</p> <p>第7回  予習：教科書第10章講読  授業：教育分野に関係する法律・制度【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第10章の学習チェック</p> <p>第8回  予習：教科書第7章講読  授業：福祉分野に関係する法律・制度(1) 児童福祉【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第7章の学習チェック</p> <p>第9回  予習：教科書第8章講読  授業：福祉分野に関係する法律・制度(2) 障害者・障害児福祉【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第8章の学習チェック</p> <p>第10回  予習：教科書第9章講読  授業：福祉分野に関係する法律・制度(3) 高齢者福祉【グループ・ディスカッション】  復習：教科書第9章の学習チェック</p>			

<p>第 11 回            予習：教科書第 11 章講読            授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(1) 刑事【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 11 章の学習チェック</p> <p>第 12 回            予習：教科書第 13 章講読            授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(3) 少年【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 13 章の学習チェック</p> <p>第 13 回            予習：教科書第 12 章講読            授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(2) 家事【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 12 章の学習チェック</p> <p>第 14 回            予習：教科書第 14 章講読            授業：産業・労働分野に係る法律・制度【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 14 章の学習チェック</p> <p>第 15 回            予習：教科書第 15 章講読            授業：いのちを守る法律——生殖医療・自殺・貧困・事故・災害【グループ・ディスカッション】            復習：教科書第 15 章の学習チェック</p>								
授業開始前学習	特になし。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内に出されたレポート課題について、全体の講評と質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材	『公認心理師の基礎と実践 第 23 巻 関係行政論 (第 2 版)』(遠見書房)							
参考書	『現任者講習会テキスト改訂版』(金剛出版) その他、授業を通じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	評価の基準と方法 少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、平常点 (授業態度・議論への積極的貢献) 25 点・各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点 (5 点×15 回)。ミニレポートや小テストを提出しない場合は欠席とみなす。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かすことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目	公認心理師の受験資格を得るためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、担当教員全員が心理臨床の実務経験を有している。各回では、それぞれの経験を活かして、公認心理師に求められる法的な知識や関係機関について講義・演習を行う。							

科目名称	心理演習		
科目分類	130-331-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Seminar on Psychology	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>以下の事項について、役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通じて、基本的な水準の知識及び技能を習得する。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を必要とする者等に関する知識及び技能の習得（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等）</p> <p>(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>(ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>(エ) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
到達目標	<p>①心理的支援の4業務について、説明できるようになる。</p> <p>②援助の基礎となる基本的なコミュニケーションの技術を身につけ、場に応じた社会性のある態度で人と関わられるようになる。</p> <p>③クライアントのニーズを心理・社会・生物的な多様な視点からとらえ、複数の支援計画を検討できるようになる。</p> <p>④事例に即して、チームアプローチや多職種連携及び地域連携の必要性について、説明できるようになる。</p> <p>⑤事例に即して、公認心理師としての職業倫理や法的義務を説明できるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p>【第1回】  予習： あらかじめ授業のシラバスを読んでおくこと  授業： ガイダンス、自己紹介（インタビューによる他己紹介）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第2回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 基本的なコミュニケーション技法（ロールプレイング・グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第3回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 心理面接（ロールプレイング）：傾聴の基本姿勢（ペアワーク）  復習： 授業ノートの整理、録音データの文字おこし</p>			
<p>【第4回】  予習： 前回の授業の録音データの文字おこし  授業： 共感的傾聴の振り返り（課題研究型授業）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題①の作成</p>			
<p>【第5回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習①：教育場面におけるクライアントの理解とニーズの把握（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第6回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習②：教育/福祉場面における心理査定（WISCを中心に・グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第7回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習③：教育/福祉場面における支援計画（WISCを中心に・グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p>			
<p>【第8回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 職業倫理・法的義務①：教育場面における秘密保持義務とその例外状況（いじめなど・ディスカッション）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題②の作成</p>			
<p>【第9回】  予習： 配布資料を読んでおくこと</p>			

<p>授業： 実践的演習④：医療場面におけるクライアントの理解とニーズの把握（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第10回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑤：医療場面における心理査定（テスト・バッテリーについて）と支援計画（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第11回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑥：医療/産業・労働場面におけるチームアプローチ、多職種連携（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第12回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 職業倫理・法的義務②：医療/司法・犯罪場面における秘密保持義務とその例外状況（自傷他害など・ディスカッション）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題③の作成</p> <p>【第13回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑦：さまざまな場面でのチームアプローチ、多職種連携（課題研究型授業）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第14回】  予習： 配布資料を読んでおくこと  授業： 実践的演習⑨：こんなときどうする？—困難事例への対応（課題研究型授業）  復習： 授業ノートの整理、レポート課題④の作成</p> <p>【第15回】  予習： 授業ノートの整理  授業： まとめ、心理実習にむけて  復習： 授業ノートを用いて、授業で学んだことを振り返っておくこと</p>								
授業開始前学習	「心理学的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」など関連の公認心理師科目を復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施するロールプレイや事例検討、ディスカッションなどにおいて、随時フィードバックをおこなう。							
テキスト・教材	授業内で資料を配布する。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	4回のレポート課題（各20点×4回、計80点）、授業ノートが20点、合計100点満点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	◎	○
関連科目	「心理実習」							
その他	4月に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師・臨床心理士の教員が担当する。							

科目名称	心理実習		
科目分類	130-331-24 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychological Practice	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解にもとづき、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受けて、以下の（ア）から（ウ）に掲げる事項について修得する。</p> <p>（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ  （イ） 多職種連携及び地域連携  （ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
到達目標	<p>保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実地実習、および事前事後学習を通じて、以下にあげる項目を目標とする。</p> <p>①それぞれの分野に応じて、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの特徴を説明することができるようになる。  ②それぞれの分野に応じて、多職種連携及び地域連携の特徴を説明することができるようになる。  ③それぞれの分野に応じて、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明することができるようになる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
<b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>			
<p><b>【第1回】</b>  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：保健医療分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第2回】</b>  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：保健医療分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p><b>【第3回】</b>  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：保健医療分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第4回】</b>  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：福祉分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第5回】</b>  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：福祉分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p><b>【第6回】</b>  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：福祉分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第7回】</b>  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：教育分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p><b>【第8回】</b>  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：教育分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p><b>【第9回】</b>  予習： 実習の体験をまとめておくこと</p>			

<p>授業： 事後学習：教育分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第10回】  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：司法・犯罪分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第11回】  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：司法・犯罪分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p>【第12回】  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：司法・犯罪分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第13回】  予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う  授業： 事前学習：産業・労働分野（グループワーク）  復習： 授業ノートの整理</p> <p>【第14回】  予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと  授業： 実習：産業・労働分野（夏期休暇中に実習）  復習： 実習日誌の作成</p> <p>【第15回】  予習： 実習の体験をまとめておくこと  授業： 事後学習：産業・労働分野（プレゼンテーション）  復習： 授業ノートの整理</p>								
授業開始前学習	「心理的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」「心理演習」など関連の公認心理師科目を復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	事前学習、実地実習、事後学習のそれぞれにおいて、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材	授業内で資料を配布する。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	事前学習課題（グループワーク）（各分野5点×5＝25点）、実習ノート（5ヶ所（福祉は4日分）；5点×8＝40点）、事後学習課題（プレゼンテーション）（各分野5点×5＝25点）、実習の参加態度（10点）、合計100点満点で評価する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成			人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	○	◎
関連科目	「心理演習」							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること。</li> <li>・夏季休暇中に正課外活動を行う。実費等、実施については授業内で説明する。</li> </ul>							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師・臨床心理士の教員が担当する。							

科目名称	卒業論文							
科目分類	130-331-24	単位数	履修ガイド参照					
英文名称	Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者	各担当教員		必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	綾城・田中・藤川・藤城・富士原・依田・丸山		開講時期	履修ガイド参照				
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40		研究室	10-714				
授業概要	<p>大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。ここでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。</p> <p>具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。</p>							
到達目標	<p>各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。</p> <p>各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。</p> <p>専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。</p> <p>各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること</p>							
アクティブ・ラーニング型授業	有							
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）								
<p>卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。</p> <p>授業の内容 全般にわたる諸注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である</li> <li>2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと</li> <li>3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと</li> <li>4. 論文全体の構成を常に意識すること</li> <li>5. なるべくはやい段階で書き始めること</li> <li>6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること</li> <li>7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること</li> </ol> <p>卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。</p>								
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通じた地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間								



